

初夏の山 2011 5・6月

●表紙「尾瀬ヶ原中田代」……松田敏男

5月

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 31 | 31 |    |    |    |    |

6月

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    | 1  | 2  | 3  | 4  |
| 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |    |    |



百合ヶ岳(大峰)山頂より  
(西村文男)

●初夏に春の息吹 湖北中央分水嶺周辺の山 …… 榎上俊雄  
**例** **会** **コ** **ー** **ス**

●西尾根から横山岳 …… 榎上俊雄  
 ●川上岳から位山 …… 村田智俊

**山行計画** …… 5

**個人紀行** …… 4 3

●吾妻山から弘法山 …… 木村太郎  
 ●静ヶ谷から静ヶ岳 …… 井口俊介

**連載** …… 20 17

●三角点を訪ねて「旗護山、点名(緑谷)へ」 …… 磯部 純  
 ●標高による山の紹介 △△18の山 …… 松田敏男

●文学歴史ハイク「大原の里に建礼門院を訪ねて」 …… 松永恵一  
 ●「青春18きっぷ」での日帰り山行 飯田線の山 …… 金谷 昭

●旗振り通信の研究「テレビで紹介された旗振り山Ⅳ」 …… 柴田昭彦

**レポート** …… 31 38 34 26 23

●山の地名を歩く「両神山」 …… 西尾寿一  
**コースガイド** …… 30

①神山 …… 松尾一郎  
 ②嬉城山 …… 柴田昭彦

**ギャラリー** …… 44 42

●近江の山―花暦―初夏 …… 山本武人  
 ●フォトエッセイ「立夏」 …… 松永恵一

●越後(棚田と美人林) …… 武市通治

**会員投稿** …… 62

**山行報告** …… 西村敏夫・一芝義雄

**広報** …… 49

新ハイサービステーション …… 64 47  
 原稿募集・会員募集・新入会員紹介・広告案内 ……

# 初夏に春の息吹

湖北中央分水嶺周辺の山

檀上 俊雄



カタクリ

湖北にある標高1000前後の中央分水嶺の山の春は遅い。沢筋の雪はどっさり残り、1000前後の山頂付近はそれらが解けて無くなるのは5月連休以降。横山岳の白谷コースなどは5月下旬、夜叉ヶ池の山開きは6月上旬までずれ込む。残雪が山からすっかり消え、順を追って山野草の花々が次々と開く。フナが芽吹き葉を広げてゆくのは湖西や京都北山の春の様子だが、湖北では雪解けと開花とフナの芽吹きが同時進行といえるくらいにあわただしく繰り広げられる。

まさに北国の遅い春の訪れであり、初夏の山は生きているという躍動感にあふれ、訪れる私達まで心踊る。一面に咲くイワウチワ・カタクリ・イカリソウ・ショウジョウバカマ・ニンソウやイワカガミ・イチゲ・サンカヨウなどなど、お気に入りの花を見たいと思っても、雪解けが毎年少しずつ違うものだからそううまく満開の時に出会えないのが毎年の悩みの種だ。

ともあれ、いい時だけその山へ足を運んでいい思いをしたいというのは虫のいい話であって、世の中そんなに甘くはない。春夏秋冬、飽くことなくトレイル歩きをしていると、当然ながらうまく花に出会えることが多い。特に残雪の山をスノーシューなどで楽しんでみると、雪解けの進み具合をリアルタイムで知ることになり、雪が消え花が咲く時期を予想できるからだ。

同じ山へ続けて行くのはもったいなので違う山へも足を向けたが、お気に入りの山の定点観測をしてみるといい。今年は準備期間と割り切り、来春に向けてとびきりの感動を静かに独り占めす

るのである。そして神秘的で可憐な自然の造形との貴重な出会いを、できればだれにも邪魔されず静かに楽しみたいものだ。

花と向かい合うということは、図鑑にあるように名前から始まり生態や特徴を知ることとする生物学的な観察も大切なことだが、眼の前の花が咲くまでのおいたちを思いやるだけの心の余裕を持ちたいものだ。この気持ちが自然と向かい合うということにつながり、また花を通じて自らを省みることにもなり、こうした静かなひと時を過ごすことができれば、とても素晴らしいことであり貴重であると思う。

湖北の山は伊吹山地の一角に当たり、横山岳天狗の森の岩場のように石灰岩の露頭もあり、伊吹山にある花はほとんど自生していて、訪れる登山者も少ないことから花を楽しむ場所としては理想的だ。

余呉トレイルクラブが整備した横山岳西尾根コースなどは、菅並から終始尾根を伝うコースであって雪解けが早く、5月連休の頃にはショウジョウバカマ・イカリソウ・カタクリ・イワウチワなどが垂直分布的に林床を埋め尽くして実に壮観だ。厳しい登りが続くものの、トレーニングをして向かえば、いい出会いが期待できるとっておきの場所といえるだろう。

フナ林の余呉頂上の展望台に立てば、上谷山から三国岳へ、さらに夜叉ヶ池から東へ続く越美国境の中央分水嶺の山並が間近に望め、この西尾根のように人知れずお花畑があつて訪れる人待ち続けているだろうと想像するのは楽しい。

# 西尾根から横山岳



イカリソウ



ブナ林をくぐる



西峰（余呉頂上）から横山岳へ行く

## 5月9日月例会 コースガイド

權上 俊雄

花の横山岳はよく知られているが、白谷コースは残雪が解けるのが遅く花を楽しむのも容易ではない。そうしたなかで、余呉トレイルクラブが整備した西尾根ルートは、花の時期に歩くことができる貴重なコースだ。とはいえ、高低差1000m近いことから、ゆっくり花を愛でながら登ろうと思うと時間的な余裕が必要となる。拠点であるウツディバル余呉に宿泊し、早朝出発がおすすぬ。これによって下山を西尾根同様に花の三高尾根から鳥越、小市谷、菅並という、花の横山岳にふさわしい贅沢なコースどりが可能になる。

菅並の林道横山岳線の登山口からスタート。いきなりの急登が始まるが、ここはイカリソウが多い。ケヤキ広場から展望台を経て再び急な尾根を登ると林床一面にカタクリが現れ、足の踏場もないくらいに壮観だ。さらに次の急坂を越えて天狗の森が近くなるとイワウチワの登場だ。石灰岩露頭の岩場周辺もヒトリシズカなど様々な花が咲く。ここはよそ見をせず慎重に進もう。立派なブナ林に入ると傾斜もゆるくなり、余呉頂上へ着く。まだ残雪があり、やぶが出ていれば北尾根へわずかに進むと展望台がある。

横山岳三角点に立ったら三高尾根をくだる。琵琶湖展望台を過ぎると道は急となるが、段差がある所には固定ロープもあって安心だ。急な尾根だがブナ林が立派で道端にはカタクリをはじめ花が多い。望展望台を過ぎ再び急なくだりとなり、下り立った所が鳥越。菓谷山へ少し登り返して小市谷へのか細い道へ入る。捲道から杉林の尾根をくだって谷へ下り立ち、棚田跡の杉林のなかを谷道は続く。幾度かの渡渉は浅い所を選ぶ。やがて林道へ出て、菅並へ戻る。

**コースタイム** 菅並から西尾根の登り約3時間30分、三高尾根から小市谷を経て菅並へのくだり約3時間。

**地図** 余呉トレイルマップ（2万5千分の1）

**問い合わせ** 余呉トレイルクラブ（ウツディバル余呉内）

☎0749（36）4145

ササユリ・ドウタンツツジが咲く

6月26日例会 コースガイド

# 川上岳から位山

中級コース(★★★)

飛 弾



もつ十数年も前にならうが、6月下旬、ひとりで一等三角点の川上岳に登ったことがある。梅雨の晴れ間に恵まれ、山頂を目の前にして尾根を歩

いて行くと、道の左右にササユリが群生して咲いていた。また、山頂から位山まで天空遊歩道が整備されているが、マイカーで往復したので、天空遊歩道をたどるのを諦めて引き返したことがある。

数年後、この時期に新ハイ山行を計画し、再び訪ねてみた。しかし、期待していたササユリは残念ながら蕾が固くてまだ咲いていなかった。この時は天空遊歩道を位山まで縦走し、ドウタンツツジなど多くの花を見ながら歩くことができ、ササユリは見られなかったものの、多くの感動があった。

この初夏、久しぶりに川上岳に登ってササユリを鑑賞してみたいと考え、計画してみた。きっとササユリが咲いているだろうし、一等の川上岳山頂からの展望もすばらしいことだろう。また、天空遊歩道も健在だろう。

登山口は、山之口の大足谷林道。麓には萩原町が小学校の廃校を利用した宿泊施設「位山自然の家」がある。今は、東北関東大地震の避難所になっていて4月末までは利用できないが、6月の下旬であれば大丈夫だろうと言われている。

早朝出発、林道の登山口から大足谷を渡渉して山に取り付く。ジグザグに切られた道が続き、歩きやすく楽である。やがて大足谷

の源流部の捲道となって尾根に登り着くと、ブナ・タケカンバの原生林が続くすばらしい道になる。

イヌツゲの茂る道を前ピーク(1617m)に到着すると宮村コースが合流する。前方に川上岳が顔を出し、北方の川上岳へ向かってその道をたどって行けば、ササユリの咲く道となろう。

一等三角点の山頂広場からは、北アルプス、御嶽山、白山などが見え、360度の大展望台だ。広い山頂で昼食をゆっくり楽しみ、次の位山を目指して天空遊歩道を行こう。

天空遊歩道は、地元で「鍋つる尾根」と呼ばれていたらしく、やぶが茂り、唯一残雪期に山スキーで歩かれていたそうだ。この尾根を岐阜県がやぶを切り開き、今では「位山天空遊歩道」として川上岳から位山登山口まで7.5kmの尾根道が一般のハイカーにも親しまれるようになった。

川上岳からくんだり、独標1507mに振り返り、それをくだっていくと、左へツメタ谷の分岐を見る。ここからは、ほぼ1400m超のピークを何度もアップダウンを繰り返しながら、前方に位山を見ながら目指せばよい。

位山からは、「天の岩戸」を過ぎ、天空遊歩道の登山口スキー場まで新緑の広葉樹林の尾根をたどることになる。(村田)

## コースタイム

大足谷林道登山口(2時間30分)  
川上岳(40分) ツメタ谷分岐(2時間) 位山(1時間30分) ダナ平林道・スキー場登山口

## 地形図

2万5千1:1 山之口・位山

初夏の山  
(5・6月)

山行計画

| 5月 | 曜 | 地域   | グレード  | 行き先              | 定員 | 係  | 備考   | ページ | シマ |
|----|---|------|-------|------------------|----|----|------|-----|----|
| 1  | 日 | 鈴鹿   | ★★★★  | 焼尾山～奥山           |    | 岩野 | マイカー | 7   |    |
| 2  | 月 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 3  | 祝 | 丹波   | ★★    | 行香山～城山           |    | 仲谷 |      | 7   |    |
| 4  | 火 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 5  | 水 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 6  | 金 | 台高   | ★★★★★ | 高塚(トベツト)～戸倉山     | 6  | 西上 |      | 7   |    |
| 7  | 土 | 湖西   | ★★    | 平池～龍見神社          | 25 | 狩野 | 貸切バス | 7   |    |
| 8  | 夜 | 湖北   | ★★★★  | 西尾根～横山岳(→9日)     | 25 | 村上 | 送迎バス | 8   |    |
| 9  | 月 | 美濃   | ★★★★★ | 常貴               | 10 | 山田 |      | 8   |    |
| 10 | 火 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 11 | 水 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 12 | 木 | 鈴鹿   | ★★    | 国見岳              | 22 | 寺井 | 貸切バス | 8   |    |
|    |   | 台高   | ★★★   | 馬の鞍峰             | 25 | 西上 | 貸切バス | 8   |    |
| 13 | 金 | 六甲   | ★★    | 再成山              |    | 村田 |      | 9   |    |
| 14 | 土 | 飯高   | ★★    | 筒ヶ岳              | 6  | 中  |      | 9   |    |
| 15 | 日 | 鈴鹿   | ★★★★  | 高取山～須ヶ山～高畑山      |    | 岩野 | マイカー | 9   |    |
|    |   | 京都北山 | ★★★   | 掛機谷山(カヤンダン)      | 25 | 村田 | 貸切バス | 9   |    |
| 16 | 月 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 17 | 火 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 18 | 水 | 洛南   | *     | 淀～伏見             |    | 仲谷 |      | 10  |    |
| 19 | 木 | 大峰   | ★★★   | 清水ヶ峰             | 25 | 西上 | 貸切バス | 10  |    |
| 20 | 金 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 21 | 土 | 湖西   | ★★    | 滝谷山～大谷山          | 25 | 狩野 | 貸切バス | 10  |    |
|    |   | 美濃   | ★★★★★ | 龍野白山             | 10 | 山田 |      | 10  |    |
| 22 | 日 | 湖北   | ★★    | 河内山～橋ノ木峠         | 40 | 村田 | 貸切バス | 10  |    |
|    |   | 台高   | ★★★   | 山の神の頭            | 25 | 西上 | 貸切バス | 11  |    |
| 23 | 月 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 24 | 火 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 25 | 水 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 26 | 木 | 台高   | ★★★   | 明神平～松塚           | 25 | 西上 | 貸切バス | 11  |    |
| 27 | 金 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 28 | 土 | 大峰   | ★★    | 観音峰              | 40 | 村田 | 貸切バス | 11  |    |
| 29 | 日 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 30 | 月 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 31 | 火 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 6月 | 曜 | 地域   | グレード  | 行き先              | 定員 | 係  | 備考   | ページ | シマ |
| 1  | 水 | 北摂   | *     | 御手神社～穴籠道         |    | 仲谷 |      | 11  |    |
| 2  | 木 | 大峰   | ★★    | 白倉山(ドアミ)         | 25 | 西上 | 貸切バス | 12  |    |
| 3  | 夜 | 越前   | ★★    | 取立山(→4日)         | 6  | 中  |      | 12  |    |
| 4  | 土 | 湖西   | ★★    | 黒河峠～華風           | 25 | 狩野 | 貸切バス | 12  |    |
|    |   | 飛騨   | ★★    | 多気峠～飛鳥           |    | 村田 |      | 12  |    |
| 5  | 日 | 東濃   | ★★★★★ | 小秀山              | 10 | 山田 |      | 13  |    |
| 6  | 月 | 美濃   | ★★    | 百々ヶ峰             | 10 | 山田 |      | 13  |    |
| 7  | 火 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 8  | 水 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 9  | 木 | 台高   | ★★★★★ | 戸倉山～登尾山          | 6  | 西上 |      | 13  |    |
| 10 | 金 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 11 | 土 | 京都北山 | ★★★   | オバタケダン           | 40 | 村田 | 貸切バス | 13  |    |
| 12 | 日 | 台高   | ★★★   | 白旗岳              | 25 | 西上 | 貸切バス | 14  |    |
|    |   | 鈴鹿   | ★★★   | 八尾山～高取山          |    | 岩野 | マイカー | 14  |    |
| 13 | 月 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 14 | 火 | 京澤   | ★★    | 大平山～千歳岳          |    | 仲谷 |      | 14  |    |
| 15 | 水 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 16 | 木 | 大峰   | ★★    | 清明の尾山            | 25 | 西上 | 貸切バス | 14  |    |
| 17 | 金 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 18 | 土 | 湖西   | ★★    | 横谷峠～駒ヶ岳西尾根       | 25 | 狩野 | 貸切バス | 15  |    |
| 19 | 日 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 20 | 月 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 21 | 火 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 22 | 水 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 23 | 木 | 奥高野  | ★★    | 水ヶ峰～松殿山          | 25 | 西上 | 貸切バス | 15  |    |
| 24 | 金 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 25 | 土 | 飛騨   | ★★★   | 鷹谷山・川上岳～位山(→26日) | 25 | 村田 | 貸切バス | 15  |    |
| 26 | 日 | 鈴鹿   | ★★★★★ | サクラグチ～横谷山～能登ヶ峰   |    | 岩野 |      | 16  |    |
| 27 | 月 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 28 | 火 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 29 | 水 |      |       |                  |    |    |      |     |    |
| 30 | 木 |      |       |                  |    |    |      |     |    |

- 残雪のある山は滑り止めを持参ください。
- 申し込みは必ずチェックし、重複しないようご注意ください。
- キャンセルする場合は、必ず申込先に連絡してください。各リーダーへの山行メンバーは直前(3日前)に届けています。
- 定員制での申込人数の確認など、下記のホームページで検索することができます。

**湖北**  
カタクリ・イワウチワが満開  
**西尾根から横山岳**

★★★★  
25名

5月8日(日)夜～9日(月) 前夜泊 雨天中止

●(8日)ウツディバル余呉17時00分(電車の人は余呉駅16時30分)

行程 (8日)余呉駅(バス)ウツディバル余呉(泊)

(9日)ウツディバル余呉(バス)菅並―西

尾根―横山岳―三高尾根―鳥越―小市谷―

菅並(バス)余呉駅(17時)

費用 約5500円(宿泊・バス・弁当代)

地図 2万5千Ⅱ横山・敦賀

係 ◎檀上俊雄 ○村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 村田智俊まで

◆西尾根から登る。日帰りではロングコースになり、ゆつくりと花や展望を楽しんで歩けないので、前夜は麓のバンガローにて自炊泊する。



葛谷山越しの横山岳 (檀上俊雄)

**美濃**  
久瀬から登る  
**雷倉**

平日山行9  
★★★★★  
10名

5月9日(月) 雨天中止

●JR大垣駅北口旧ロータリー8時00分

行程 大垣駅(車)揖斐川町久瀬―白倉林道―雷

倉―(往路)―久瀬(車)大垣駅

費用 交通費各自(車代1000円)

地図 2万5千Ⅱ谷汲・樽見

係 ◎山田明男

申込 〒503-0535 海津市南濃町松山624

の19 山田明男まで

◆長い白倉林道はショートカットして歩く予定。

**鈴鹿**  
シロヤシオが見頃  
**国見岳**

平日ふれあいハイク78  
★★  
22名

5月12日(休) 雨天中止

●JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分

行程 京都駅(バス)朝明溪谷―ハライド―腰越

峠―P108―青岳―国見岳―国見峠―

藤内小屋―蒼滝橋(バス)京都駅(18時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ御在所

係 ◎寺井恒夫

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆展望のよいハライド(908m)から新緑の尾根を国見岳へ歩く。シロヤシオが見頃だろう。

**高台**  
アケボノツツジ・シヤクナゲが咲く  
**馬の鞍峰**

★★★  
25名

5月12日(休) 小雨決行

●近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)カクシ平登山口―行

宮跡―西尾根―馬の鞍峰―西尾根―尊義親

王墓―明神滝―カクシ平(バス)橿原神宮

前駅(18時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ大和柏木

係 ◎西上和 ○下都正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆ブナ・ヒメシヤラも新緑。明神滝は下山時。



馬の鞍峰のアケボノツツジ (西上和)

**甲 再度山** 新緑の森林浴 全羅里山ハイイク39  
★★

5月13日(金) 雨天中止

● JR三ノ宮駅10時00分

行程 三ノ宮駅(電車)新神戸駅—布引の滝—市ヶ原—再度公園—修法ヶ原池—大竜寺—再度山—狸々池—大師道—諏訪神社—地下鉄

費用 県庁前駅—元町駅(15時)  
交通費各自

地図 昭文社「六甲・摩耶」

係 ●村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

◆六甲のポピュラーな里山をのんびりと歩く。



**高 飯局ヶ岳** 伊勢三山のひとつ 6名⑧  
★★

5月14日(土) 雨天中止

● JR石山駅7時30分

行程 石山駅(車)局ヶ岳神社—椿瀧道登山口—新道—局ヶ岳—(往路は旧道)—局ヶ岳神社(車)石山駅

費用 交通費各自(車代ワリカン)  
地図 2万5千倍

係 ●中 照行

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆伊勢の槍ヶ岳。展望のよい椿道をゆっくり登る。  
\*マイカーは局ヶ岳神社へ9時まで。

**鈴鹿 高取山・猿ヶ山・高畑山** カレンフェルトの岩稜 鈴鹿を歩く⑧501  
マイカー  
★★★★

5月15日(日) 雨天中止

● 河内線寺院前広場8時30分

行程 広場—入谷—高取山—猿ヶ山—高畑山—中村—広場

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・靈仙・伊吹」

係 ●岩野 明 ●後藤康幸 ●山田景三 ●一芝義雄

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆この山域はあまり歩かれていない。樹林と苦むした岩稜が続く。ヤマシヤクヤクに出会えるかも。

**京都北山 八丁の奥山 掛橋谷山(カヤンダン)** 京都北山歩き146  
25名  
★★★★

5月15日(日) 雨天中止

● JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分

行程 京都駅(バス)河内谷林道ユリ谷出合—男鹿峠—掛橋谷山—南水無峠—北水無峠—河内谷林道(バス)京都駅(18時)

費用 約3000円(バス代)

地図 昭文社「京都北山」

係 ●村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

◆ユリ谷道から男鹿峠に登り、山頂を目指す。静かな山頂で北山の良さをしみじみと感じてほしい。



南 京街道を歩く  
淀から伏見

ゆつくり歩こう19

★

5月18日(木) 雨天中止

● 京阪淀駅 9時30分

行程 淀駅—旧淀城—伏見港—出会橋—伏見桃山—丹波橋駅(14時30分)

費用 交通費各自・資料代20円

地図 2万5千Ⅱ京都東南部・京都西南部・淀

係 ●仲谷礼司 ○沖 伸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

貸切バス

◆ 今回から旧街道を隔月で歩く。初回は東海道五十七次といわれる京街道を歩く。歴史に関心のある方はどうぞ。ゆつくりペースで歩く。

大峰 ヤマシヤクヤクの関花を期待  
清水ヶ峰

★★★  
25名

5月19日(木) 小雨決行

● 近鉄橿原神宮前駅中央口 8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)奈良教育大登山口—十坪平—ヤマシヤクヤク自生地—九号鉄塔—清水ヶ峰—平田平—七号鉄塔—十坪平—登山口(バス)橿原神宮前駅(18時)

費用 約3500円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ上垣内

係 ●西上和和 ○下郡正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆ 関花を期待して尾根ルートで山頂を目指す。

湖西 高島トレイル3コース 週末ハイイク130  
滝谷山から大谷山

★★  
25名

5月21日(日) 雨天中止

● JR京都駅八条口団体バスのりば 7時40分

行程 京都駅(バス)滝谷山登山口—滝谷山—近江坂—坂土—大谷山—寒風—マキノスキー場(バス)京都駅(19時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ熊川・海津

係 ●狩野東彦

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

貸切バス

◆ 昨年雨天中止になった、滝谷山から高島トレイルに合流するコースを歩く。ややロングコース。



濃美 一等三角点の山  
奥能郷白山

展望の山80

★★★★★  
10名

5月21日(日) 雨天中止

● JR穂積駅北口 7時00分

行程 穂積駅(車)温見峠—能郷白山—(往路)—温見峠(車)穂積駅

費用 交通費各自(車代2000円)

地図 2万5千Ⅱ能郷白山

係 ●山田明男

申込 〒503-0535 海津市南濃町松山624の19 山田明男まで

貸切バス

◆ 山頂部に残雪があり快適に歩くことができれば、磯倉まで足をのびたい。

湖北 余呉トレイル  
河内山から栃ノ木峠

★★  
40名

5月22日(日) 雨天決行

● JR京都駅八条口団体バスのりば 7時40分

行程 京都駅(バス)池河内湿原—巡視路—河内山—△751・8(点標粉ヶ岳)—栃ノ木峠—ベルクススキー場口(バス)京都駅(18時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ中河内・板取

係 ●村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

◆ 池河内湿原の花を見て、河内山から中央分水嶺を栃ノ木峠までたどる。



## 高山の神の頭

シヤクナゲ・シロヤシオが咲く

★★★  
25名

5月22日(日) 小雨決行

貸切バス

●近鉄橿原神宮前駅中央口8時10分

行程 橿原神宮前駅(バス)三の公登山口ーキノ

コ股谷分岐ー山の神の頭ー(往路)ー三の公登山口(バス)橿原神宮前駅(18時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ大和柏木

係 ◎西上利和 ○下郡正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆登山口から急登が続くが支尾根にのればゆるやかな尾根歩きで、この時期の花が迎えてくれる。

山の神の頭山頂 (西上利和)



## 高山明神平から松塚

新緑のフナ林・シロヤシオの花が見頃

★★★  
25名

5月26日(木) 小雨決行

貸切バス

●近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)明神平登山口ー明神

平ー明神岳ー松塚奥峰ー松塚ーヌタハラ出合ー宮の谷出合(バス)橿原神宮前駅(17時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ大豆生・七日市

係 ◎西上利和 ○下郡正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆明神平のブナ、松塚へのシロヤシオが見頃。

シロヤシオ (西上利和)



## 大峰観音峰

稲村ヶ岳を展望

★★  
40名

5月28日(土) 雨天中止

貸切バス

●近鉄下市口駅9時10分

行程 下市口駅(バス)登山口ー観音平ー観音峰

ー法力峠ー洞川温泉(入浴・バス)下市口駅(17時)

費用 約3000円(バス代)

地図 昭文社Ⅱ「大峰山脈」

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 村田智俊まで

◆新緑の観音峰尾根を法力峠まで縦走し、洞川温泉で汗を流す。

## 北摂 三川合流を望む 磐手社神社から太閤道

ゆっくり歩こう20

★

6月1日(水) 雨天中止

●磐手橋バス停9時35分(JR・阪急高槻駅から)

行程 磐手橋バス停ー磐手社神社ー安満宮山古墳

ーV字分岐ー展望所ー三角点若山ー若山神社ーJR島本駅(15時30分頃)

費用 交通費各自・資料代20円

地図 昭文社Ⅱ「北摂・京都西山」

係 ◎仲谷礼司 ○沖 伸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

会員外可

◆安満宮山古墳から太閤道に入る。近場の山を遠く角度から楽しみ、ゆっくり歩く。

## 峰 白倉山 (ドアマミ)

★★  
25名

6月2日休 小雨決行

貸切バス

●近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)母公堂→法力峠→山上→クモクビ塚→狼尾根→白倉山→法力峠→神泉洞(バス)橿原神宮前駅(18時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ洞川

係 ◎西上利和 ○下郡正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆山上迂へ登り、レンゲ辻から派生する狼尾根に取り付き、シャクナゲの群生地を訪ねる。



## 越前 取立山

★★  
6名

6月3日(金)夜、4日(土) 雨天中止

●(3日) JR石山駅22時00分

行程 <3日>石山駅(車)途中が登山口で(仮眠)<4日>登山口→取立山→こつぶり山→大滝→登山口(車)石山駅

費用 交通費各自(車代ワリカン)

地図 2万5千Ⅱ北谷

係 ◎中 照行

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆ミスバシヨウの時期を過ぎた静寂な取立山を歩く。下山後、温泉に入って帰る。

## 湖西 黒河峠から寒風

★★  
25名

6月4日(土) 雨天中止

貸切バス

●JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分

行程 京都駅(バス)黒河越林道入口→黒河峠→三国山→明王禿→赤坂山→栗柄越→寒風→マキノスキー場(バス)京都駅(18時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ駄口 昭文社「比良山系」

係 ◎狩野東彦

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆ドウダンツツジが咲く三国山への道を歩き、赤坂山から寒風を巡る高島トレイルを歩く。

## 飛鳥 多武峰から飛鳥

★★

6月4日(土) 雨天中止

●近鉄桜井駅南口9時00分

行程 桜井駅(バス)多武峰→鹿路トンネル分岐→毫在峠→多武峰→談山神社→御破裂山→右舞台古墳→飛鳥駅(16時30分)

費用 交通費各自

地図 2万5千Ⅱ畝傍山・古市場

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

◆多武峰、御破裂山から飛鳥の里を歩く。田植えの終わった棚田が美しい。



## 濃 小秀山

御嶽山の展望台

展望の山81

★★★★★  
10名

6月5日(日) 雨天中止

●JR 勝川駅 7時30分

行程 勝川駅(車)乙女溪谷登山口—夫婦滝—兜

岩—小秀山—尾根—登山口(車)勝川駅

費用 交通費各自(車代2500円)

地図 2万5千II滝越・宮地

係 ◎山田明男

申込 〒503-0535 海津市南濃町松山624

の19 山田明男まで

会員外可

◆雪は残っているのか? 花はどうだろうか? 連続する滝を見ながら登る。

## 美濃 百々ヶ峰

岐阜市の最高峰

平日山行10

★★  
10名

6月6日(月) 雨天中止

●JR 西岐阜駅 9時45分

行程 西岐阜駅(車)三田洞弘法—百々ヶ峰—西

峰—登山口(車)西岐阜駅

費用 交通費各自(車代5000円)

地図 2万5千II岐阜北部

係 ◎山田明男

申込 〒503-0535 海津市南濃町松山624

の19 山田明男まで

会員外可

◆三田洞弘法ルートから歩く。簡単に二回りできる。

## 高 戸倉山から登尾山

尾根筋からは展望抜群

★★★★★  
6名

6月9日(木) 雨天中止

●近鉄 権原神宮前駅 中央口 8時05分

行程 権原神宮前駅(車)細尾谷登山口—戸倉山

—登尾山—(往路)—細尾谷登山口(車)権

原神宮前駅(17時30分)

費用 約3000円(車代)

地図 2万5千II大和柏木

係 ◎西上利和

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆バスが入らないので自家用車で行く。登尾山まで3時間のロングコース。

## 京都北山 オバタケダン

香丹国境尾根の三角点 京都北山歩き147

★★★  
40名

6月11日(日) 雨天中止

●JR 京都駅 八条口 団体バスのりば 7時40分

行程 京都駅(バス)盛郷結藤谷合合—結藤谷林

道—支尾根—P743—オバタケダン—旧

道掘越峠—国道(バス)京都駅(18時)

費用 約3000円(バス代)

地図 昭文社II「京都北山」

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 村田智俊まで

◆支尾根に取り付くと自然林となり、国境尾根のオバタケダン(点名盛郷)に登り着く。

戸倉山山頂 (西上利和)



白鬚山山頂 (西上和)



### 高 白鬚岳

やせ尾根を縦走

★★★  
25名

6月12日(日) 小雨決行

貸切バス

●近鉄橿原神宮前駅中央口8時10分

行程 橿原神宮前駅(バス)中奥—大鯛林道終点

—高尾—白鬚岳—小白鬚—神谷分岐—トグ

ラ分岐—粉尾(バス)橿原神宮前駅(18時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ大和柏木

係 ●西上和 ○下郡正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆大鯛林道から高尾に取り付き、やせ尾根を縦走して山頂へ。下山は最短コースで粉尾集落へ。

### 鹿 八尾山から高取山

バノラマコースを歩く 鈴鹿を歩く357

★★★

6月12日(日) 雨天中止

マイカー

●佐目敏満寺線大瀬神社前広場8時30分

行程 広場(車)丁字路広場—八尾山—高取山—

高取山ふれあい公園—広場

費用 交通費各自

地図 昭文社Ⅱ「御在所・霊仙・伊吹」

係 ●岩野 明 ○後藤康幸 ○山田景三

○一芝義雄

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆中世には山城があったといわれる八尾山と西隣につながる高取山の稜線を歩く。

### 津 大平山・千頭岳

新緑を歩く 尖壁ハイク82

★★

6月14日(火) 雨天中止

●石山団地バス停9時35分

行程 石山団地バス停—東海自然道登山口—大平

山—千頭岳—牛尾観音分岐—行者ヶ森—大

宅(16時)

費用 交通費各自・資料代20円

地図 2万5千Ⅱ京都東南部・瀬田

係 ●仲谷礼司 ○沖 伸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆大平山から新緑の山並をたどる。そろそろ暑さ対策を。

### 峰 清明の尾山

クサタチバナの花山行

★★  
25名

6月16日(木) 雨天決行

貸切バス

●近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)トンネル東口—の

タワ分岐—P1458—クサタチバナ自生

地—P1458—東尾根—清明の尾山—林

道新田線ゲート(バス)橿原神宮前駅(18時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ弥山

係 ●西上和 ○下郡正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆雨天でも比較的 safely に歩ける尾根道を使う。



**湖西** 高島トレイル⑦のコース 週末ハイク132  
**横谷峠から駒ヶ岳西尾根** ★★  
 25名

6月18日(土) 雨天中止 貸切バス

● JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分  
 行程 京都駅(バス)横谷峠―池原山分岐―フナ  
 原生林の池―駒ヶ岳南尾根―駒ヶ越―駒ヶ  
 岳―駒ヶ岳西尾根―木地山(バス)朽木て  
 んくつ温泉(バス)京都駅(18時30分)

費用 約3000円(バス代)  
 地図 2万5千Ⅱ豊庭野・古屋  
 係 ◎狩野東彦

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の  
 10 新ハイキング関西まで

◆ブナの新緑を楽しむ。下山後入浴予定。



駒ヶ岳ブナ林トレイル (榎上俊雄)

**奥高野** 鶴姫ゆかりの地  
**水ヶ峰から松股山** ★★  
 25名

6月23日(木) 小雨決行 貸切バス

● 近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分  
 行程 橿原神宮前駅(バス)登山口―水ヶ峰―西  
 ケ峰―水ヶ峰―熊野古道―レストラン鶴姫  
 休憩所―松股山(鶴姫墓)―法峠(バス)野  
 迫川温泉(入浴・バス)橿原神宮前駅(17時)

費用 約3000円(バス代)  
 地図 2万5千Ⅱ梁瀬  
 係 ◎西上和和 ○下郡正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の  
 10 新ハイキング関西まで

◆松股山展望塔からは淡路島・四国が望める。



水ヶ峰山頂 (西上和和)

**飛騨** ササユリが咲く川上岳へ  
**築谷山・川上岳・位山** ★★★  
 25名

6月25日(土) 26日(日) 2日 雨天決行 貸切バス

● (25日) JR京都駅八条口団体バスのりば7時  
 40分  
 行程 (25日) 京都駅(バス)登山口―フナ平―  
 築谷山―南尾根―登山口(バス)位山自然  
 の家(泊)  
 (26日) 宿(バス)萩原登山口―川上岳―天  
 空遊歩道―位山―林道(バス)京都駅(19時)

費用 約12000円(バス・宿泊代)  
 地図 2万5千Ⅱ萩原・下呂・位山・山之口  
 係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の  
 10 村田智俊まで

◆飛騨の山で比較的好く歩かれている三山に登る。  
 川上岳山頂付近にはササユリが咲く頃。



川上岳山頂から御嶽山を望む (榎上俊雄)

鹿ノ馬特選コース 鈴鹿を歩くコース  
**鈴鹿 サクラグチ・横谷山・能登ヶ峰**

★★★★★

6月26日(日) 雨天中止

マイカー

●大河原「かもしか荘」広場8時30分

行程 かもしか荘(車)ウグイ川林道広場→P8

9→サクラグチ→P889→横谷山→P

768→P696→鹿の楽園→能登ヶ峰→

ウグイ川広場

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・靈仙・伊吹」

係 ●岩野 明 ○後藤康幸 ○山田景三

○一芝義雄

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆ウグイ川の周りの山々をゆくり周遊する。南

鈴鹿の山々の眺望がすばらしい。



◎5・6月実施山行係(リーダー)への問い合わせ

| 氏名   | 例金名       | 〒        | 住所                 | 電話(FAX共)                         | 申し込み |
|------|-----------|----------|--------------------|----------------------------------|------|
| 岩野 明 | 鈴鹿を歩く     | 523-0041 | 近江八幡市中小森町666-15    | 0748-33-7215                     | 関西本部 |
| 狩野東彦 | 週末ハイク     | 617-0006 | 向日市上植野町9-9         | 075-933-1458                     | 関西本部 |
| 檀上俊雄 | 余呉トレイル    | 520-0528 | 大津市和邇高城319-3       | 090-1145-3293                    | 関西本部 |
| 寺井恒夫 | 平日ふれあいハイク | 604-8874 | 京都市中京区壬生天池町30      | 075-811-5231                     | 関西本部 |
| 中 照行 | 関西の名山     | 520-2134 | 大津市瀬田3-33-6        | 0775-45-7017                     | 関西本部 |
| 仲谷礼司 | 火曜ハイクほか   | 617-0817 | 長岡京市滝ノ町1-6-4       | 075-952-1577                     | 関西本部 |
| 西上利和 | 奈良周辺の山    | 586-0043 | 河内長野市清見台4-19-1-409 | 0721-63-7196<br>FAX 0721-63-5988 | 関西本部 |
| 村田智俊 | 金曜里山ハイクほか | 610-0121 | 城陽市寺田大群10-10       | 0774-53-2754                     | 本人   |
| 山田明男 | 展望の山ほか    | 503-0535 | 海津市南濃町松山624-19     | 0584-56-1466                     | 本人   |

祈・復興

3・11 東日本大震災

◎被災された方にあたたいエールを!

丹 沢

● 関東ふれあいの道

あ ずま やま

# 吾妻山から弘法山

こう ぼう やま

木村 太郎

私がこだわる「歴史と文学の山」という山の特性が、首都圏近郊の低山の連なりの中にもあることを知り、目新しさも手伝い関東の山へ足を運ぶ機会が近ごろ増えている。

丹沢山地東端にある秦野市の吾妻山から弘法山、三浦半島の武山から富士山への連なりは、日本武尊の東征神話が語られた山だといふ。また近代歌人の前田夕暮や若山牧水が若き日に、その山々のそばで暮らし、それらの山を歩いたという記録がある。梅雨入り前に思い立ち、吾妻山から弘法山へ歩いた。

から登山道に入る。クマ出没注意を呼びかける看板に目を通していた私の横を、若いカッブルが追い抜いていく。

市街地に連なる低山にクマが出るという話に、さすがは丹沢山地と感心しながら急坂を登る。尾根導入路を登り切るT字地点に石造りの道標がある。前方は伊勢原市の坪ノ内からつながる道だが、左に折れて伊勢原と秦野の市境尾根にのる。

左右に見えていた田園のたたずまいが、すぐに樹林に隠される尾根道になる。雑木林の様相を心地よい気分であらう歩いて行けば、サクラの木に囲まれた吾妻山（158m）に着く。東屋のテーブルに中年の夫婦がおり菓子を広げており、離れた木のベンチには先ほどの若者が肩を寄せてい

る。山頂に弟橘媛を顕彰する「吾妻神社」石碑が建ててあり、吾妻山は「古事記」中巻が伝える日本武尊東征ゆかりの山という。

東国を伐つために日本武尊が相模から房総へ渡ろうとしたとき、荒れ狂う海を鎮めようと、三浦半島の走水から后弟橘媛は身を犠牲に船上から波間に沈んだとされる。その時の愛する日本武尊に暇乞いする弟橘媛の歌に、相模の小野が歌われている。

「さねさし相模の小野に燃ゆる火の火中に立ちて問ひし君はも」の歌は、山々の立ち並ぶ相模の小野の燃え盛る火中で、私の安否を気遣いくださった、あなたのお言葉と気持ち私には忘れないでしようの歌意である。

古事記が伝える相模の小野は、厚木市の小野神社付近とされている。小野神社の祭神は日本武尊で、社伝に野火の難にあつた小野は当地と記している。相模各地に伝承されている日本武尊の足跡をつなげれば、箱根を越えて秦野古道の渋沢丘陵を歩き、善波峠を経て吾妻山を通り、伊勢原から相模の小野へ入り、海老

吾妻山山頂の石碑



名を過ぎて鎌倉を抜け、三浦半島へ行軍して行ったとも想像されよう。あす訪ねることになっている三浦半島の武山と三浦富士とともに、この日歩く吾妻山と弘法山は、日本武尊が足跡をとどめたと言ひ伝えられているのである。

相模の小野で武尊の愛情を信じ命を捧げた弟橘媛には、走水に到るまでの相模の道のりが幸福を感じた時だったといえる。その気持ちは日本武尊も同じであり、東征の帰途につく足柄の坂本で、弟橘媛をしのん



で「吾媼はや（ああ、わが妻はなあ）」と詠嘆してみせている行為にして明らかであろう。

明治初期に全国の地図作成が進められる時、日本武尊の足跡にちなんで吾妻山の名が付けられたという。明治三十一年に地元が建てた「吾妻神社」碑を、吾妻山を訪ねた記念にデジカメに写し、弘法山へ向かう。

一服できそうな鉄塔下を通り善波峠の分岐に来ると、大山南尾根へ続く「野菊と信仰の道」の説明板を見る。矢倉沢往還の善波峠は北へ5分程の距離、峠の地蔵と御夜燈があり、昔の峠道の面影をとどめている。

峠分岐に引き返し、急坂に向かうことしばしで坂道がゆるやかになり、弘法山（235m）に登り着いた。弘法大師がこの地で千座の護摩を修行したのが山名の由来で、大師の木像をおさめた釈迦堂がある。山頂の鐘楼に相模第一の大鐘「刻の鐘」があり、昔三、四里四方に時を報じていたという。

山頂で祖霊の迎え火を燃やし、山をくだる百八松明の火祭りが旧盆の夜にある。きょうは丹沢の山々や秦野市街の真昼の眺めを楽しんで、馬場道に向けて階段をくだる。右に

弘法山山頂の鐘楼



めんよりの里を経て弘法山入口バス停の道、左に小田急線の東海大学前駅にくだる道を見る。駅へ歩く途中に通る南矢名小南に、前田夕暮（1883〜1951）の生家がある。

夕暮は処女歌集「収穫」で登場し、牧水の「別離」と併称されるなど歌壇に一時期を劃した。幼い日々馬場道へ上がり遊び場にしていた弘法山を、夕暮が最後に訪ねたのは昭和二十四年麦秋、生涯を閉じる一年半前のことであった。夕暮は「よくこゝで頬白をホーホーと呼んだんだよ」



# 個人紀行

昔は草競馬が行われた馬場道を突き当り、桜の名所で知られた弘法山公園の百畳敷に登り着く。相模湖・富士山・丹沢大山連峰を望む三等三角点の権現山(243.5m)の山頂で、神奈川県新聞社の「神奈川県新八景」選の記念に展望台が建てられている。

富士山を愛した夕暮(第10歌集「富士を歌ふ」第11歌集「新須富士」がある)

と、涙を浮かべて故郷の山を追想している。

権現山 三角点



権現山 夕暮歌碑



のために、山頂の富士山に真向かうところに前田夕暮歌碑が建立されている。母校秦野高校の生徒集会で同校の杉山茂夫が訴え、生徒と教員の努力奉仕で建てられた歌碑という。生くること悲しとおもふ山峡ははだら雪ふり月照りにけり

歌集「生くる日に」の三浦半島の歌、歌集「原生林」の丹沢玄倉山の歌など、故郷相模の山峡こそ前田夕暮が永遠に夢見た原風景といえた。昭和二十五年夏に丹沢中津溪谷への旅の途上で倒れて、仰臥の生活とな

り翌年4月20日に永眠をした。同年7月に弘法山公園の歌碑が除幕されている。

一時期に自由律短歌を実践するなど、革新的な歌作を試行した夕暮だが、私が愛誦する夕暮の歌は、歌集「収穫」の恋歌である。

木に花咲き君わが妻とならむ日の四月なかなか遠くもあるかな

前田夕暮が亡くなる前に、弘法山を訪ずれて涙したのは、山に登り過ぎた若き日々を思い出していたからだろう。頬白を話題にしたのは、弘法山一帯に野鳥が多く生息するからだろうか。現在の権現山には、バードウォッチングの観察舎が建てられている。

山みれば山海みれば海をのみおもふごとくに君をのみ思ふ

山があり海がある故郷の相模を愛した夕暮は、処女歌集「収穫」で初恋を歌い、時には人妻となった恋人を歌い、歌集出版後に結ばれた愛妻を歌っている。弘法山公園の夕暮歌碑は、愛した故郷の景観を歌人在りし日のように眺めているのである。

権現山から公園内の浅間山(196m)を通過して、杉林の坂道を弘

法山公園入口へくだる。

この日の道は首都圏自然歩道(関東ふれあいの道)で、伊勢原市の坪ノ内から秦野市の南平橋まで「弘法大師と桜のみち」としてハイカーに歩かれています。

関東ふれあいの道はこの先、平塚市から大磯町の「鷹取山・里のみち」へ続く。私はコースから外れて、市街地の道を小田急秦野駅へ向かった。(平成22年6月6日歩く)

## コースタイム

小田急鶴巻温泉駅(30分) 吾妻山(35分) 善波峠(20分) 弘法山(20分) 権現山(25分) 弘法山公園入口(20分) 小田急秦野駅

## 地形図

2万5千II伊勢原・秦野

**岐阜県及び周辺の山岳ツアーとガイド派遣を常時開催。**

|        |       |        |
|--------|-------|--------|
| ●大日ヶ岳  | ●御前岳  | ●野伏ヶ岳  |
| ●旗ヶ馬場山 | ●南木曾岳 | ●龍潭白山  |
| ●冠山    | ●川上岳  | ●奥三界岳  |
| ●雲ヶ岳   | ●金剛堂山 | ●大笠山 等 |

◎詳しくは、パンフレットをご請求下さい。  
お電話、FAX、E-mailにて受付しております。

**株式会社アウトドアサポートシステム**  
◎マウンテン事業部◎  
電話:0575-46-9236 FAX:0575-46-9232  
E-mail: m-info@odss.co.jp  
〒501-3725 岐阜県美濃市依町2122  
http://www.odss-nagaragawa.jp/

● 静寂なセキオノコバの池で自分だけの時間

# 静ヶ谷から静ヶ岳

井口 俊介

愛知川源流、茶屋川の支谷のひとつ、静ヶ谷に初めて入ったのは今から20年以上前、茨川林道の復旧工事がようやく終了して、車が入れるようになった頃のことである。当初は源流への釣りが目的だったが、後年山登りを楽しむようになると、当然のようにこの谷を登路として静ヶ岳まで足を運ぶようになった。

茶屋川流域には、本流の源頭、真ノ谷を除いて、北の土倉谷から神崎川との出合上部の滝谷まで、支谷とその枝谷を合わせて、名前の付いているものだけで29の谷がある。今までに八風谷、古語録谷の一部の枝谷を除いてほぼ全ての谷に一度は足を踏み入れてきたが、その中にあってこの静ヶ谷には、何か私を引きつけてやまない格別のものを感じてきた。

その魅力は何かと問われれば、小規模ながら変化に富んだ溪相、植林から免れた自然林の谷といった点ももちろんあるが、とりわけ私にとつてこの谷をかけがえのないものになっているのは、人の気配というものを全くといってよいほど感じない点である。

た。

静ヶ岳への登路の紹介記事の中には、たまにこの谷の名前が出てくることがあるが、実際にはほとんど歩かれていないようだ。私は、この静ヶ谷に釣りや登路としてかれこれ数十回は入っていると思うが、人に出会ったことはもちろん、テープなどの目印や踏跡など、人の歩いた痕跡を目にしたことは一度もない。忘れられたかのように、名前の通りの静

かな静かなたたずまいを今も残しているのである。

かな静かなたたずまいを今も残しているのである。

晴天が約束されたこの日を持って、静ヶ谷から静ヶ岳、セキオノコバ、その先の無名池までたどる計画を立ててみた。

昨年11月以来の静ヶ谷である。どのような天候であつても、山にはそれぞれ良さがあるのだが、今回は風薫る新緑の季節、あふれる陽光のなかで一日を過ごしたいと思う。下山は大井谷乗越から又川谷にくだるといふのも悪くないが、きょうは山中でゆっくりと自分だけの時間を過ごしたい。行程の短い静ヶ岳西尾根をたどって、もうひとつの私の気に入りの谷、丈治谷を下降して戻るとにしよう。

茨川林道に車を乗り入れて20分あまり、又川谷出合を過ぎて、右岸から左岸に道を変えると、すぐ左手に格好の広場がある。そこに車を置く。用具の点検をして、沢靴に履き替え入る。駐車場所から静ヶ谷までは歩いて15分。9時30分に谷に降りた。谷口からしばらくは鬱蒼とした樹林の間を細々とした平凡な流れが続くが、すぐに勾配は急となり大岩が連続しはじめた。15分で左2右1の最初の二俣。左本流をとると、そこから10分で早くもこの静ヶ谷の核心、20段多段の滝。水量は平常よりもやや少ないか。



静ヶ谷 20段多段の滝下部

この滝を通過するのに通常は、左岸の支尾根から大高捲きをするようだが、私は出来る限り大きな高捲きはしたくない。滝下から兩岸を眺めると、一見、左岸の斜面がゆるい草付きになっていて、容易に捲けそうに見えるのだが下から見ると実際とは大違い。以前に一度取り付いて恐ろしい目に遭ったことがある。斜面は上に行くに従って手掛りかほと



んどなくなり、さらにその先では死角になった部分に大岩がハンクして行く手を阻んでいる。進退これ極まるとはこのことだが、幸いその時はロープとハーネスをサックに入れていたのと、すぐそばに支点でできる木があったので、懸垂で谷中まで降り難を逃れられたのだが、後から考えても冷や汗ものだった。

ここを谷中から通過できるのは、右側の一本のルート。滝のすぐ左手が切り立った岩峰になっていて、そのすぐ左側の急傾斜の部分で20分程上まで登る。手掛かりとなる岩や木の根が豊富で容易に登れる。そこか

らは一段目10分の滝上を捲くようにしてトラバース。土の急斜面は足を滑らせれば谷底まで真つしぐらだが、ここも手掛かりは豊富で慎重に進めば問題はない。一段目の滝上を通過した後、再び谷に降りる。小さなゴルジュの中を5分ほどの流が連続。膝上まで水に浸る所もあるが、難なく直登して行く。

ゴルジュを過ぎると、谷中は急に広くなり、鈴鹿の谷には珍らしく原生林が大きく樹冠を広げている。下流では気にならなかったが、このあたり倒木がずいぶんと目につくようになってきた。岩からの落ち込みには土砂が堆積して淵を浅くしてしまっている。昨秋の鈴鹿の山容を変えるほどだった豪雨の影響によるものだ。元の姿に戻るには永い時間がかかるだろう。

10時40分、再び小さなゴルジュとそれに続く多段の滝、最初の10分滝は、流直下左岸の斜面を登って捲くこともできるが、陽の当たらない草付きの急斜面は滑りやすいうえに山ビルの巣窟。ここは30分ほ

ど手前、左岸のゆるやかな斜面を登って滝上を捲く。そこから上は小滝が連続、脇にはワサビが自生している。

その先、連続する小さなナメを通ると左岸に静ヶ谷のシンボルツリーともいえるトチの大木。まだ芽吹いたばかりだ。ゆっくりと休憩をとる。そこから20分程で左3右1の二俣、左本流に沿って進むと、谷は急に勾配を増し、水流も極端に細ってきた。そしていつしか水流も途絶え、二俣が連続。ふたつめの二俣中央の支尾根に取り付いて、二次林に囲まれた気持のよい斜面を15分程登ると、雑木林に囲まれた静ヶ岳山頂。12時5分。

山頂には珍らしく10人程のグループと二組のふたり連れ。狭い山頂は腰を降ろす場所もないほど。いつものことながら、あらぬ方向から飛び出してきた沢スタイルの私に好奇の目が向けられる。

山頂を通過して県境尾根を東にくだと、10分程で左下にセキオノコバの池が見えてきた。さらに二重山稜を歩いて数分で無名池。新緑のなかにひっそりとたたずむ姿は、何とも言葉に表わせないほどの雰囲気。昼食はゆるやかな草むらの斜面に囲

まれたセキオノコバに戻ってとることにする。

草むらに沢靴、靴下を脱いで腰を降ろす。食事とその後のコーヒーを時間をかけてゆっくりと楽しみ、草むらに寝そべる。新緑の間を吹き抜ける初夏の風と木漏れ日、自分だけの夢のような世界だ。先ほどから持ってきた小さなスピーカーのついたウォークマンでテレマンとブルーリンクをかけている。オーボエの哀愁を帯びた音色が、このセキオノコバの雰囲気を一層際立たせている。静寂の山域に人工の音を持ち込むのは

静ヶ谷のトチの大木



邪道というものが、きょうはこ  
でゆっくりとした時間を過ごすつも  
り、それも許されるだろう。

目を閉じると、世俗の全てのこと  
が、遠い夢の中のことのように思え  
てくる。

それにしても……、先ほどの山頂  
の喧騒と、静ヶ谷・セキオノコバの  
静寂との差は同じ山域にあつて何な  
のか。山頂を目指す山登り、山頂は  
指標であつても、決して目標とはな  
り得ない私の山登り。山の楽しみ方  
は人それぞれであることは確かだが、  
残された人生の貴重な一瞬を、山の  
懐に身を委ね、その中に溶け込むよ  
うにして一日を過ごしたいいつも  
思う。

夢とうつつの間を漂っているうち  
に、いつの間にか心地よい眠りの中  
に入ってしまったようだ。何時間であ  
れどもここに居たい気分を振り払って、  
下山の準備に取りかかる。靴も軽登  
山靴に履き替える。

帰途は、静ヶ岳山頂に戻り、西尾  
根へのルートを確認して進路をとる。  
尾根にのつて20分程でP1047に、  
そしてすぐに分岐、右の尾根もルー  
トのひとつなのだが、きょうはこの  
先で丈治谷に下降するので左の尾根  
に進む。ここからはわかりにくい分

岐が連続。間違わないように地形図  
とコンパスを確認しながら慎重に進  
む。

さらに20分程進むと、右に丈治谷  
左俣源頭が見えてきた。この左俣が  
丈治谷の本谷だが、途中険しい箇所  
で高捲く所があるので、今回はこの  
先、ゆるやかな傾斜の右俣から降り  
ることにする。P814を通過し  
ていくつかの分岐を過ぎると、高  
度計で720に、丈治谷右俣が見  
えてきた。少し先に進んで、緩斜  
面の所から谷に降りる。急勾配の  
谷を慎重にくだと、30分で先ほ  
どの本谷が右から合流。さらに10  
分でけつこう立派なゴルジュ。左  
岸を捲いて右に渡り返す。ここか  
ら谷は穏やかな溪相を見せてきた。

この丈治谷のおもしろいのは、登  
りて下から見ていると、平凡でどこ  
にもある谷にしか見えないのだ  
が、下降で俯瞰すると、一変して二  
次林が眼前に広がり、その中を穏や  
かな細流が糸を引くように続いてい  
て、あたかも自然の庭園の中を歩い  
ているかのような錯覚さえ覚えるの  
だ。小規模な谷ながら、何度歩いて  
も飽きない、私の気に入りの谷のひ  
とつである。  
きょう一日の余韻を楽しみながら、

丈治谷




ゆっくりとくだつてくると16時15分、  
目の前に林道の橋が見えてきた。こ  
こから駐車場所までは、一投足であ  
る。  
(平成22年5月9日歩く)

**コースタイム**

茨川林道広場(15分) 静ヶ谷(2時  
間35分) 静ヶ岳(1時間30分) 丈治  
谷(1時間10分) 茨川林道


2万5千円電ヶ岳

**人気商品紹介**  
◆ウォーキングW◆  
2気室切替式短期縦走モデル



オリジナルザック & 登山用品専門店  
**神戸ザック**  
<http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac>

伊モック山遊行くらぶ  
春夏秋冬、季節を気にせず、  
里山・低山・名山を訪ねます。  
お気軽にご参加下さい。



〒653-0038 神戸市長田区日吉町3丁目30号  
カナンビル2F  
TEL (078) 621-5851  
FAX (078) 621-3528  
営業時間 10:00~20:00 日曜日不定休

・雨室内ジッパー付き小ポケット。  
・中&Aフレーム内蔵により体型に合わせて形状を変えることが出来、ザックの型くずれを防ぎます。  
・左右サイドファスナー付。片側は内ポケット、もう一方は内部へのアクセス用。  
・フロントポケットはメッシュとゴムコード付。  
・内部の仕切りフラップの開閉により、1~2気室に切り替えて使い分けが可能に。  
・立体裁断により体にフィットし、疲労感を軽減します。

☆32L☆

- \*カラー イエロー×モノクロ・ワイン×モノクロ  
マゼンタ×モノクロ・ネイビー×モノクロ  
レッド×モノクロ
- \*重量 1550g
- \*素材 高密度ナイロン
- \*価格 ¥15,750

☆28L☆

- \*カラー イエロー×モノクロ・ワイン×モノクロ  
マゼンタ×モノクロ・ネイビー×モノクロ  
レッド×モノクロ
- \*重量 1400g
- \*素材 高密度ナイロン
- \*価格 ¥13,650

旗護山三角点



狭 若

三角点を訪ねて⑦  
●関峠から

はた「こ」やま  
旗護山、点名〈緑谷〉へ  
みどりたに

磯部 純

5月の高島さんの例会で、敦賀湾の西にある尾根を、関峠から敦賀市と美浜町の境界を歩き、点名「緑谷」までを縦走した。

集合は、JR敦賀駅に9時。駅前の駐車場で待つが、駅付近に例会参加者の車は見当たらない。9時前になつてやってきた高島さんに「例会参加者は何人ですか?」と聞くと、「あと3人が車で来るので。新ハイの参加者は5人だけ」との返事。リーダーは、5人での山行では寂しいと思ったのか、高島さんの小学二年生の孫と、「つるが山楽会」の女人を誘ってくれていて、7名の山行としてくれた。

時間ぎりぎりに守山の彼の車が到着すると、参加者6人が揃う。計画では関峠からのピストン往復だったが、参加人数が少なく車が三台あったので、下山する西原地区西奥にある林道広場へ二台の車を置くことに変更になり、三台の車は、敦賀駅か

らまっすぐに西へ走る。林道広場へ車を置くと、守山の彼の車に全員が乗り、途中の金山の神社で山楽会の彼女を拾って関峠にある広場へ駐車した。ここがこの日の出発点であった。

林道を奥へ歩いて、「火の用心」の看板から巡視路を西へ登ると、すぐに尾根への。方向を北に変えて、左檜右雑木の尾根を登って行くが、傾斜は思っていた以上に急で岩肌の出ている道は滑りやすい。道脇には、名もわからない白い小花をいっぱいにつけた小木が点々と続いている。時折、足元にチゴユリの花も見える。一步一步滑らないように足元を

確かめながら登っていくと、アチコチで5センチ程のムカデが蠢いているのは驚かされた。急坂の登りに額から汗を流して、フウフウ言いながら30分も坂道を登ると、紅白の送電線鉄塔のあるピークへ着く。下から見ると、「すぐ登れそうな低い山」と思っていたが、いざ登ってみると、思った以上に時間がかかり、息が切れてならなかった。

北へのびる尾根には、しっかりとした巡視路が付いていた。足元には点々と、葉の下に花を付けたカンアオイを見る。ピークから北へ、少し

くだって登り返すが、いつの間にか左手の杉林は雑木林に変わり、右手の雑木林は杉林に変わっていた。時折杉林の間から、敦賀湾や気比の松原、敦賀の街並が見え隠れしている。林が切れて道脇に荒地が現れると、ワラビがアチコチに出ていて、ワラビを採りながらの歩きとなった。道は比較的ゆるやかで展望もすばらしい。こんな快適に歩くことのできる山道が家の近くにあるのに、山楽会の彼女は、この尾根道を初めて歩くと言う。平坦な尾根を、ワラビを探しながら歩き、送電線をくぐって少し登ると、三角点のあるピークへ着いた。

地形図に旗護山と書かれているピークの道脇に三角点が立っている。点名「杓見」で、標高は318.4m、三等三角点である。標石は東向きで、東から北へ5度振っていた。山頂は平坦で、東西を林に遮られて展望はない。この旗護山の山名は、「戦国時代に国吉城主栗屋勝久がこの山に旗旗を立て、朝倉義景軍を牽制したことに由来する」という。

三角点から平坦な尾根を北へ向かう。相変わらず道脇のワラビが目がゆき、採らずに見過ごすのは損をしたような気がする。この例会にいつ



もの彼女達が参加していれば、もっと徹底して探るはずなので、時間はこれ以上に遅れてしまったに違いない。25分も歩くと ゆるく登り、標高点339mのピークへ着く。

このピークは、愛宕山と呼ばれている。平坦な山頂には愛宕神社の社が鎮座し、火産靈命が祀られているという。堂の前には石の燈籠跡が残っていて、古くから信仰があったことがうかがえる。山頂の東斜面には、10年前に植えられたという桜の木が育っていて、公園を思わす雰囲気、桜の季節には、花見の宴が行われてもおかしくない山頂だ。この山頂か

ら西方の展望が開け、若狭湾を始め、天王山や御岳山を目の前に見ることができた。先ほど踏んだ旗護山の説明板は、なぜかこの広場に設置されている。

愛宕山から北へ向かうと、道の両側はタニウツギの林で、コアジサイの蕾もある。足元には茎の長い紫色の鮮やかなスミレの花が咲いている。ヒメハギの花も見た。くだりにかかると、前方には点名「緑谷」のピークが間近に見え、その麓まで続く尾根が右から左へとうねっている。その尾根を歩いて、あの急斜面を登るのだと思うと、下から見た時には低

旗護山から若狭湾を見る



い尾根歩きに思えたが、何か高い山を歩いているような気にさえなってくる。尾根をくだると、朝に車を置いた林道が尾根の下にのびてきている。

尾根なりに曲がって、やぶをかき分け巡視路を西へ向かう。鉄塔をくぐると方向を北へ振り、尾根の登りになる。その先ですぐに巡視路との分岐になるが、点名「緑谷」へは尾根を直登する。以前はやぶに覆われていたそうだが、高島さんがやぶを

刈ってくれたので、歩きやすい道になっていった。

急斜面の道跡を登り、やっとゆるくなると平坦な山頂で、道跡はここまで。目の前は枝打ちされた杉の植林帯。高島さんが下見に来た時、三角点はどこにあるのか見付けることができなかったと聞いたので、これから全員で探そうとした時、「石がある！」と彼女の声。行ってみると、四つの保護石に囲まれた三角点で、杉の林のなかのピークではなく、登ってきた尾根の雑木林と杉林の境界に、杉の葉に覆われて立っていた。三角点の標高は401.1m、点名は「緑谷」、四等三角点であった。標石は、しっかりと磁石の南を向いていた。

時間は12時前。この枝打ちされた杉林のなか、杉の枝をかき分けて空所をつくって坐り、昼食とする。杉の林も隙間が多く、前方には寺山がコブのように盛り上がっている。右手には、西方ヶ岳が高くそびえている。来る時まで見えていた北方尾根、続きの三内山は、杉の林に遮られ、見ることはできない。高島さんの横に坐って食べているお孫さんは、半ズボン姿。二度も足にタニがひつつき、気持ち悪がって「ヒイヒイ」音

点名「緑谷」での昼食



送電線鉄塔にて（筆者を除く）



っている。

山頂でゆっくりと1時間を通り、12時55分の出発となる。下山路は、東にある鉄塔に出て巡視路をくだり、林道へ下りる。杉林のなか、枝打ちされた杉の隙間をぬって東へ向かい、イバラの多いやぶの斜面をくだる。尾根にのると、鉄塔のある広い広場へ出た。

この鉄塔は、前年に鉄塔解体中に事故が発生し、2人の作業員が亡くなり、2人が大怪我をした場所だという。広場の西外れには、木製の真新しい祭壇が置かれ、祭壇には酒・ビール・果物などが供えられていた。まだ飲み足りない宇治の彼がそれを見て、手を合わせ祈るなり「お下がりを頂きます」と言ってビールの栓を抜き、うまそうに飲んでいた。送電線の東の尾根にある巡視路を

10分もくだると林道に下り立ち、舗装された林道をタニウツギの花を見ながら20分で展望台。その東斜面の歩道をタニウツギをかき分けてくだると、車を置いた広場へ出て解散となった。（平成21年5月9日歩く）

**コースタイム**

関峠（30分）鉄塔ピーク（20分）旗護山（20分）愛宕山（1時間）点名「緑谷」（10分）鉄塔（10分）林道（20分）展望台下広場  
**地形図**  
 2万5千Ⅱ教習

**琵琶湖の北に連なる山**

— 近江東北部の山を歩く —

草川啓三著 A5判 一六四頁 一八九〇円

歴史に名を残す山々で想いを巡らし、花イッパイの山やブナの森では自然を満喫し、白銀の尾根では山スキー。山の達人が美しいカラー写真とともに、湖北の多彩な魅力を紹介する。

最新刊

好評6刷!

新刊

**飛驒の山**

— 研究と案内 —

飛驒山岳会 編著 A5判 三三八頁 二六二五円

飛驒百山の案内に、岩場登攀・沢登りも紹介!

— 救助・防災必携 —

**ロープレスキュー技術**

堤信夫著 A5判 二二六頁 二二〇〇円

現場で使えるレスキュー技術を図解入りで手順・方法を解説。

**ナカニシヤ出版**

京都市左京区一乗寺木ノ本町15  
 tel 075-723-0111 〒606-8161  
 www.nakanishiya.co.jp/ 高橋啓三

| 新ハイ関西 118号   |         |
|--------------|---------|
| 標高△△ 18mの山   |         |
| 大万木山 (1218m) | 中国山地)   |
| 818峰 (818m)  | 京滋県境尾根) |
| 桐ヶ平山 (1218m) | 奥越)     |
| 天吉寺山 (918m)  | 湖北)     |
| 茂来山 (1718m)  | 中信)     |

**大万木山**

山陰地方の名山である三瓶山とブナの美林が広がる大万木山へ、初秋の週末に三宅さんと時高さん夫妻の4人で出掛けた。三瓶山に登ったあと、大万木山の登山口である島根県民の森へ向かった。そこには「県民の森トレッキングガイド」の小冊子が用意されていて、県が整備に力を入れていることがわかる。大万木山へは幾つかのコースが開かれているが、そのうちの権現滝を見ることが出来る滝見コースを門坂駐車場から往復した。

谷沿いの道なので残暑厳しい季節でも全くと言っていいくらい暑さを感じず、深い大きなブナの森へと入って行った。山頂近くのゆるやかな

斜面に差しかかると厳しい時空を生きた長らえてきたコブの目立つブナや、枝分かれの形に長い年月を物語るブナたちが、黒緑色のコケを纏ってさまざまな姿で林立している。歴史の重さを感じさせる偉観を前に言葉をしぼった。

山頂を越えた所には大ブナがひとつ、他のブナよりも格が上の風情で、たくさん枝を分けて大きく高く梢を広げていた。

**コースタイム**  
(平成18年9月3日歩く)  
県民の森滝見コース門坂駐車場(2時間30分) 大万木山(1時間30分) 車止

**地形図**  
2万5千Ⅱ 頓原

**818峰**

山城・丹波・近江境の三国岳と丹波・近江・若狭境の三国峠とを結ぶ京都と滋賀の県境尾根の中程にある山が818峰だ。その山頂から尾根が北東へ生杉集落入口の大宮神社へのびている。残雪期にこの尾根を登ろうと岩井さんが計画し、6人で往復した。

杉林が混在する雑木林主体の尾根は林間より百里ヶ岳や三国岳方面の展望もあり、また幾度かのアップダウンが山の深さを感じさせて、なかなか趣のある尾根だった。山頂付近は古い杉林主体の双耳峰になっていて、読図する楽しさもあった。

6人も揃っていたから残雪のラッセルは心地よく、からりと晴れた早春の、麗らかな日帰り山行が味わえた。

**コースタイム**  
(平成20年3月2日歩く)  
大宮神社(3時間30分) 818峰(2時間) 大宮神社

**地形図**  
2万5千Ⅱ 古屋

**桐ヶ平山**

818峰へ登った翌週、時高さん

夫妻と桐ヶ平山へ山スキーで登った。初めてその名前を聞いても皆目見当がつかない。部子山の南にある三角点峰だ。山頂部がいくつもの円峰で構成された複雑な地形だ。

北陸道武生インターを出て国道417号に入り、池田町水海へと進む。水海川沿いの林道を標高にして350㍍あたりが除雪最奥地点で低い雪壁があった。

スキーをつけて水海川沿いの林道を谷が二俣になっている林道三叉路まで進んで右へると、200㍍程でまた三叉路に出会う。ここを左へ曲がれば尾根を登るようになった。標高550㍍付近で林道は尾根の左

桐ヶ平山より部子山





桐ヶ平山より銀杏峰



側をトラバースしているが、そこで林道を見送って尾根に取り付いた。テント泊装備に加えてビールまで背負っているから重かったが、標高差にして70m程少し急な斜面を登れ

ば、テント場予定の836mの標高点まではゆるい斜面だった。山スキーのほうがワカンよりも体が沈まなくて歩きやすかった。

翌日は山頂まで往復したあと、テントを撤収して京都まで帰るといふ少し厳しいスケジュールだ。明るくなり始めた6時前に出発する。朝日を横から受けて出来た仄暗い大きな樹影の間に、紅の雪肌が燦めいて幻想的な美しさだ。樹林が途切れた深雪の尾根からは、姥ヶ岳と能郷白山が圧倒的なボリュウムで眺められた。1121mの標高点から南東へ少しくんだり、本峰の山塊へ移るあたりがわかりにくい所だ。行く手には左にも右にも同じようなこんもりとした高みがあって、地形が把握しづらかった。よく晴れた風のない日だったが、念のため要所には赤布を付けて登った。

ブナが立ち並ぶ広々とした山頂からは、郎子山と銀杏峰がくっきりと望まれ、その右奥には別山、白山、荒島岳が遠望できた。

下山はスキーだから瞬く間にテント場に到着することができ、テントを片付けて最後の滑走を楽しんだ。

(平成20年3月8日～9日歩く)

**コースタイム**

水海川沿林道標高550m付近(2時間30分) 836m地点(2時間30分) 桐ヶ平山(1時間) 836m地点(1時間) 車止

**地形図**

2万5千〃宝慶寺

**天吉寺山**

14年前の冬に一度登ったことがあったが、秋は大層いい山だった。会のメンバー5人で行った。天吉寺の駐車場から神社を抜けて550mの標高点に向かって急な道を登った。枯葉が敷きつめられた急斜面をよじ登るように登れば、懐かしい幸せな気持ちがあふつと湧いてきた。

高圧線を過ぎたあたりから傾斜はゆるくなり、広葉樹林も少しずつ色付きが深くなった。なかには日差しに射抜かれて今が盛りに輝く深紅の紅葉にも出会えた。南北に走る主稜線に出ると美しい黄葉のカエデがあり、青空をバックに仰ぎ見る角度で写真に収めた。

山頂は我々5人が輪になって昼食をとるのにちょうどいいほどの、秋の彩りに囲まれる広さだった。

(平成22年11月7日歩く)

**コースタイム**

大吉寺前駐車場(2時間30分) 天吉寺山(1時間30分) 駐車場

**地形図**

2万5千〃虎御前山

**茂来山**

浅間山が噴火したのが2004年9月1日。その噴煙の立ち昇る様子を山の上から見ようと、時高さんと西山さんの3人で出掛けた。

国道299号から横沢沿いの林道を進む。茂来山登山口の標識の所で急カーブして林道を進めば登山口の広場があった。カラマツ林から自然林に変わり、ブナやシラカバが現れて霧久保沢からの登山道に出合おうと山頂だった。

浅間山は少し距離があるので大きくは望めなかったが、快晴のなか、白い噴煙が東の方へ真横に、ほとんど広がりを見せず長く長く延びているのが印象的だった。

(平成16年9月12日歩く)

**コースタイム**

横沢林道登山口(2時間) 茂来山(1時間) 登山口

**地形図**

2万5千〃海瀬

# ギヤラリ

初夏に咲く花

## 近江の山花暦

初夏 | 初夏

山本 武人

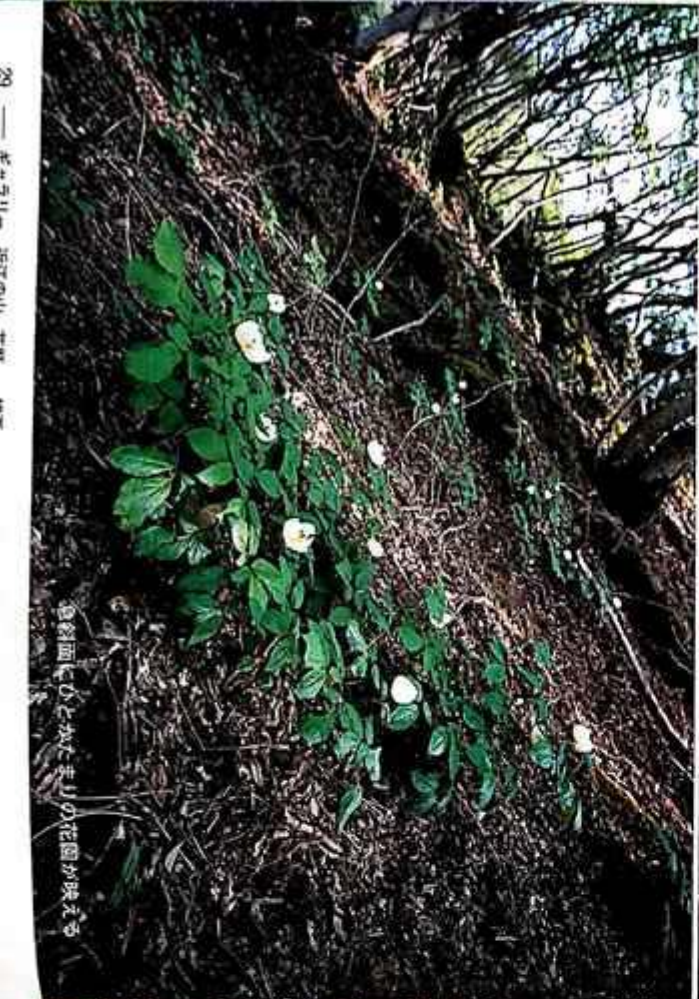
樹林の中に咲く山ギヤラリ。根瘤菌と共生する花も株も小  
さい。それでも山を歩いてこの花に出会うと心があられる思い  
だ。近江の山では鈴鹿から湖北方面が多く咲いているようだ。今  
回はその美しい花と新緑のおりな風景を四カ所で見ていただき  
たい。(いずれも鈴鹿山中にて。)

岩の間に白い花を咲かせる



花を聞く前の蓋も清楚

急斜面にひとかたまりの花壇が映える



山中にひととき自立の山花



## 山の地名を歩く⑦

## 両神山

りようかみ

西尾 寿一

埼玉県の水源の山で秩父からさらに奥地、たどり着くのにかなりの苦勞をとまなう山である。関西からださらに深く遠い存在だ。

古い時代、西から関東へ向かう山中の通路が複数存在したが、そんな道の一部がこの山の近くを通っていた。旧中山道もすぐ近くを通っているから、西の文化の進路上にあって、幾多の文化的遺産(特に信仰上の)を残した。

両神山の両神をイザナミ・イザナギの二神と考えるようになったのも、西から押し寄せる政略的文化的反映とみることができるところが、幾多のガイドブック等、山の本がその説を鵜呑みにして紹介しているのは拙速にすぎ

る。なぜなら、はるか昔に小暮理太郎氏によって詳細な分析が行われているからである。そのことは後で述べるとして、この両神山(1723)はこの地域でけっして図抜けた高峰ではないのだが、その特異な形状から関東の岳人には早い時代から知られていた。

例えば、深田久弥の「日本百名山」には関東平野を走る汽車の窓から見る両神山が表現されている。「両神山は異風である。それはギザギザした

頂稜の一線を引いているが、左右がブツ切れている。あたかも四角い岩のブロックが空中に突き立っているような……(中略)古くから名山として尊崇されているのも、この威圧的な山容からである」とあって、嫌でも注意を引く山であり、修験の山となるのも必然のことであった。

両神山はまた、二神を祭祀する山であるから二上山のように二峰に分かれた峰をもつ山と思われるが、先ほどの深田氏の見立てのように四角い岩峰で二峰ではない。それなのになぜ二神を祭祀する山となったのだろうか、そのあたりにこの国特有の「語呂合わせ」の習俗が生きていることを確認することができる。日本の地名に語呂合わせが関係しているものはいたる所にみる。それは初めからそのつもりでなくとも、口述の聞き書きや「口伝」には別の意味に変化する場合、避けられない要素があるからである。それがこの両神山にもあった。「日本山嶽志」には「両神山・別称、龍神山・八日見山」と述べるにとどめている。

先述したように両神山の山名考証に徹底的にこだわったのは小暮理太郎であった。氏は「山の憶い出」上・下二巻のなかで両神山に関する山名考証に長文を遺している。その長文を深田氏は(日本百名山)において圧縮し要約して紹介している。

先の日本山嶽志に、別称、龍神山・八日見山とあるのがキーポイントであった。小暮氏も初め龍神山が両神山と変化したものと考えたが、古文獻に最も古い山名として「八日見山」を発見するのである。

八日見から龍神に転じ、さらに両神となったの

であった。これこそが「語呂合わせ」の魔術であった。わが国の山名にはこの習慣がいたる所にみられ、しかも少しも怪しまれずに現代に引き継がれているのであった。

深田氏の要約した文章を引用すると、「ヨウカミに八日見の宛字をしたための伝説で、ヨウカミという呼称はヤオガミから来たものである。ヤオガミの「ヤ」は八の意も「オガミ」は大蛇の意で仏教でいう竜王のことである。つまりヤオガミは八つの頭を持った竜王で、この山の古縁起に「竜頭大明神を祭神とする」と記されているのと同じ「また「ヤオガミから竜神或いは竜頭が導かれ、これが両神と変ったのである」と明快に小暮説を要約している。

山頂部の鋸歯状の岩塊の姿を遠望するとき、それはまぎれもなく竜頭であり、八大竜王の姿でもあった。この国の水源の山には竜王または大蛇を祭祀するものが多い。おそらくその最大のもは、白山の越前側の大川「九頭竜川」であろう(九頭竜は別に「崩れ川」であるとすると)。

両神山の周辺は、秩父の三峰山などと共に狼「お犬さま」信仰が盛んである。両神山の両神神社にも狼は鋭い姿をした狼とみたのだがお犬さまなのであろう。

小生達は秋に八丁峠から鋭いやせ尾根を幾つもの岩峰を越えて山頂に達した。山頂からは何本もの尾根を出し、そのいずれもが岩の鎧を張りつけた堂々たる武者姿で周辺を圧していた。

なお、両神山周辺の沢はよく発達し、沢登りに適している。

研究

旗振り通信の新研究⑧

テレビで紹介された  
旗振り通信Ⅳ

柴田 昭彦

今回は、昭和59年の神戸ルート再現実験について、テレビ放映の内容を紹介したい。

筆者は、吉井正彦氏に、昭和59年と平成3年の再現実験のテレビ放映を収録したビデオテープの提供をお願いしておいたところ、平成22年2月に、VHSテープが送られてきて、当時の貴重な録画を視聴することができた。

昭和59年の再現実験については、本誌71号(50頁)と拙著「旗振り山」(ナカニシヤ出版、平成18年)の33頁で簡単に紹介している。

「ウルトラアイ・通信科学館」

昭和59年3月5日、19時30分から放送されたNHK総合テレビ「ウルトラアイ」は、1年後の筑波科学万博'85の開幕を見据えた、通信と映像の新しい姿を見せようという「ウルトラ通信科学館」の企画であった。その内容は「再現・古代ののろし」「大阪―神戸旗振り通信実験」「光ファイバー徹底解剖」の3つである。吉井氏から受け取ったVHSビデオテープ前半で、28分30秒の収録時間である。

「再現・古代ののろし」では、筑波山で上げたのろしの煙を10分離れた麓の地点から確認でき、「のろし再現大実験」は成功であった。昔の記録では23分先に届いたというが、複雑な情報の伝達は難しいという欠点がある。

「大阪―神戸旗振り通信実験」では、吉井氏が旗振り通信保存会(西宮市)を結成して協力し、堂島を基点に7つの中継ポイントを経て、神戸まで伝える再現実験が行われた。

この実験は吉井氏の東京転勤中に行われ、実験の段取りはNHKに任せただけの中継地点などの資料も残っておらず、実施した日付も曖昧だが、吉井氏は、昭和59年1―2月頃であろうという(平成22年8月の返信による)。

映像によると、ウルトラ旗振通信社の大阪発信所「堂島米相場跡」から信号は「堂島電電ビル」の高層階の東面で受信され、ビル内を走って、西面で送信し、「尼崎電話局」に送った。その後、ガスの発生で見通しが悪くなる。いくつかの中継地点を経て、諏訪山に送られ、神戸受信所の新川河口に到着したのは24分後で、特急電車ぐらいの速さであった。距離は約35kmで時速90kmである。8回送信なので、1回の送信に要した時間は3分である。

中継地点は映像の分析から昭和56年の実験を踏襲したと考えられ、次のように推定する。

◎神戸ルート再現実験(9カ所)

- ①大阪・堂島米相場跡(0.6km) ②福島・堂島電電ビル高層階(7.0km) ③尼崎電話局・金楽寺(3.8km)
- ④武庫川堤防(4.0km) ⑤西宮市役所屋上(5.7km)
- ⑥金鳥山(4.8km) ⑦六甲道(5.7km) ⑧諏訪山ピーナス・ブリッジ(3.9km) ⑨神戸・新川河口(神戸市兵庫区(兵庫新川・米商会所跡付近)計35.5km(平均4.4km))

大阪で「ウル(34.15) 26円57銭」と発信されたウルトラ米の相場値段は「36円57銭」と神戸で受信され、10円も値上がりしていた。用意された旗は赤・黒・白の3種類である。旗の動きの確認は、望遠鏡や双眼鏡を使い、どちらも手持ちによって行われた。

映像では、「旗振り通信中継ルート」の地図も出てくる。吉井氏の情報を反映させたもので、東は江戸、

西は下関までが示され、兵庫県内が詳しい。志方城山から北に延びるルートがあり、二つの地点(二つ目は「○イノコ山」と読みとれる。二つ目は不明を経て、豊岡に至っている。吉井氏によれば、「豊岡は間屋があったので」「北へのルートは未解明」とのこと、地点名もはっきりしないという(平成22年8月の返信による)。筆者は、「桶居山」「畑山」から北に延びて豊岡に到達していたと推定しており、志方城山からの但馬ルートは裏付けできない。(つづく)

(平成22年12月13日成稿)

旗振り通信 中継ルート(「ウルトラアイ」より)

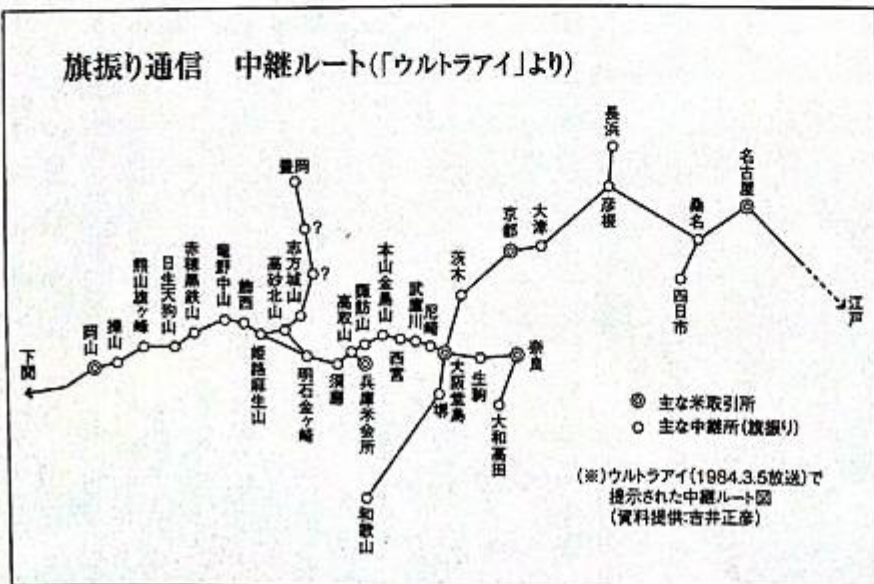


Photo essay

# 夏



題字 中田蘭石  
撮影 由井収一  
文 松永恵一





ヒメキ林の紫陽花 (三室戸寺)

立夏 夏は来ぬ 風薫る 夏浅し  
 桜が過ぎると紫陽花が待っている  
 雨上がりの紫陽花の持つ清涼感  
 三室戸寺はあじさい寺と称せられ  
 一万株が杉木立の間に咲き誇る  
 紫陽花絵巻のように素晴らしい  
 三千院の紫陽花苑は三千株以上  
 多くの珍種が所狭しと咲き乱れる  
 岩船寺は三重塔と紫陽花が美しい  
 洛南深草の藤森神社は紫陽花の宮  
 ピンクのアジサイ鈴守りが可愛い  
 手水鉢の横に咲いていた紫陽花  
 葉に蝸牛や雨蛙を乗せていた  
 路地を行くお姉さんのうしろ姿  
 紫陽花と一緒にずっと見ていた



ライトアップ (三室戸寺)

# 大原の里に建礼門院を訪ねて

けんれいもんいん

松永 恵一

寂光院

洛北は京の隠れ里。その最も奥に位置する大原の里に、「平家物語」の「大原御幸」で知られた天台宗の尼寺寂光院がある。

平成十二年(2000)5月9日未明、不慮の火災により本堂は灰燼に帰し、本尊地藏菩薩立像(重要文化財)は焼損した。淀君が再興に手を尽くしたと記す本堂の額銘も消失した。寂光院御再興 黄門秀頼御母儀 浅井備前守息女 為二世安楽也 「本堂・本尊ともに昔のままに再建したい」という住職の強い願いで古式通りに復元された。

御詠歌

難波より大原の里にしたひきて  
寂光院のみ仏にぞなむ  
願へひと六万鉢の地藏尊  
わけてたまわる信の深きに

建礼門院

建礼門院徳子は平清盛の娘に生れ、高倉天皇の中宮に上り安徳天皇を産む。三歳で即位、幼帝を抱いて高御座に座り国母となる。夫高倉上皇、父清盛が相次いで没す。木曾義仲の進攻により都を追われ、西国に落ちのびる。壇ノ浦の戦いで母二位の尼は、宝剣を帯び幼い安徳天皇を抱き、「浪の下にも都の候ぞ」と海に沈む。平家一門は手を取り組み入水し、滅亡する。自らも飛び込むが、水上に漂い助けられ、京へ送還される。比叡山の北西の麓、大原寂光院に入る。大原を訪れた建礼門院右京大夫は、「御庵のさま、御住まひ、ことから、すべて目も当てられず」と記した。

思ひきや深山の奥に住ひして  
雲井の月をよそに見んとは

建礼門院

往生極楽院(三千院)

苔の大海原、楓の若葉が輝く中にひっそりとたたずむ往生極楽院。石楠花の薄紅の花が咲き、極楽浄土とはこういう世界をいうのかと思う。

簡素な御堂は寛和二年(986)に恵心僧都源信が姉安養尼と共に父母の菩提のために建立したと伝える。堂内には大きな阿彌陀三尊像(国宝)。彼岸の極楽へ引導せんと来迎印を結ぶ阿彌陀如来座像。随喜して往生者を迎える菩薩。右に往生者を蓮台に乗せる観世音菩薩、左に合掌する勢至菩薩。少し前かがみに跪く大和坐りをなさっている。ふわっと柔らかく包み込むような阿彌陀様の周囲を周り、ひたすら念仏を称え弥陀の浄土に往生安楽を願う常行三昧が行われてきた。

有名な船底天井。煤にまみれてわかりにくいのが、金剛界胎藏界曼荼羅・二十五菩薩・飛天雲中供養菩薩・宝相華などの極彩色の絵で包まれていた。重要文化財収蔵施設円融蔵で、現代に甦った創建当時の極楽浄土を見ることが出来る。

土岐善麿は三尊像を拝み詠んだ。  
極楽はここにこそあらめみほと  
けの やまとすわりのもろひざ  
の上

寂光院



謡曲「大原御幸」

初夏のある日、後白河法皇がお忍びで訪ねてくる。鞍馬街道から静原の里を通って江文峠を越え寂光院へ。池の中島の松に架かった藤の花は咲き誇り、岸には青葉混じりの遅桜に山吹の花が咲き乱れる美しい風情。

池水に汀の桜散り敷きて  
波の花こそ盛りなりけれ

法皇の御幸に驚き袖が涙で濡れる。お尋ねのままに建礼門院は語られる。生きながらに六道を巡りその様をこ覧になったこと。西海での一門の最後。二位の尼と先帝の入水の有様。心ならずも生き長らえていること。名残も尽きぬまま法皇は還行される。

コース概観

大原の里は比叡山の麓。平安京と若狭の小浜を結ぶ若狭街道（鯖街道）が走る。魚山と呼ばれた地は仏教音楽・声明の聖地。三千院、寂光院、勝林院、宝泉院、来迎院などの修練道場が建立された。頭に柴をのせ行商に出かける大原女を想い、♪京都大原三千院恋に疲れた女が一人…♪口ずさみながら歩いてみた。

JR京都駅から京都バス17系統に乗り1時間で大原バス停に着く。春は石楠花、霧島躑躅が花をつけ、夏は紫蘇畑が彩りを添え、秋は紅葉に染まり、冬は隠れ里を雪が覆う。バス停から階段を下りて、みやげ物屋の先を左に曲がる。高野川を渡り、「左京道、右寂光院」の道標に従う。石垣の道を進むと瀧の清水。建礼門院が大原に入った時、姿がおぼろに写ったと伝える。吉田兼好の歌。



大原やいづれ瀧の清水とも知られず秋はすめる月かな

高野川の支流草生川に架かる橋を。落合の滝を建礼門院が詠んだ。

ころころと小石ながるる谷川の河鹿なくなる落合の滝

寂光院はすぐ。右側の長い石段を上ると建礼門院大原西陵。隣が寂光院。この地で哀しみの生涯を終えられた。

佗とときす治承寿水のおん国母 三十にして経読ます寺

与謝野晶子 石段を上り門をくぐると正面に再建された本堂。本堂前西側の庭園は平家物語当時のままといい。樹齢千年の姫小松も火災により傷み枯死した。本堂右側の鉄の雪見灯籠は、太閤の伏見城から移したと伝える。

寂光院の前をさらに奥へ入ると、左側の狭い石段の上に苔むした五輪塔が並ぶ。建礼門院に仕えた阿波内侍と大納言佐々木侍女たち。大原女の姿は阿波内侍の衣装が原形という。

元の道をバス停に戻り、三千院へ向かう。参道にしばしば漬けや雑貨の店が軒を連ねる。三千院の右手の川が

呂川。左手の川が律川。呂川沿いに登ると来迎院。慈覚大師門仁が声明・梵唄の道場として建立し、平安

末期には聖応大師良忍が中興、天台声明は大成長され根本道場となった。更に奥へ行くと音無の滝。良忍上人が滝に向って声明を唱え修行を重ねるうちに、滝の音と声明の音が和し、滝の音が消えたという伝説に基づく。

音なしの滝とは聞けども昔より 世に声高き大原の滝 西行法師 来た道を戻る。「梶井三千院門跡」。

城壁を思わせる高い石積は、近江坂本の穴太衆が積んだもの。門跡寺院の風格を見せる御殿門を潜る。客殿は天正年間に太閤が禁裏修理の余材でもって建立したという。竹内栖鳳等近代日本画家の作品を一堂に見ることが出来る。江戸初期の茶人金森宗和が、声明の音がしみ渡った自然の美に感動し作庭した聚碧園を鑑賞する。渡り廊下伝いに寢殿に入る。

寢殿前方から往生極楽院に到る美しい苔と杉木立に囲まれた庭が有清園。明治の俳人高浜虚子の句。

ここにまたここに掃かざる落椿 萩の花も金森宗和の庭にあれば 苔の上に戯れる羅漢さんを見ながら 金色不動堂に向かう。紫陽花苑がある。盆は大原三千院万灯会。境内全域に蠟燭が灯り、往生極楽院や観音堂が光に浮かぶ。数々の花火に勝る火の力は、見た者だけが知る世界。

律川に架かる未明橋の先が、魚山大原寺勝林院。巨大な御堂は自然と調和し、静かで優しい佇まいを見せる。入口に平井乙磨の歌碑がある。

苔の上をまるぶがごとく流れゆく 呂律の里の歌陀の聲明 浄土宗の開祖法然上人が、後の天台座主顕真法師の懇請に応じて、諸宗の学僧と浄土念仏の教理を論議問答し、信服させた大原問答が行われた。

勝林院の僧坊宝泉院は、樹齢700年の五葉松が大きく包んでいる。お抹茶をいただきながらの額縁庭園の鑑賞は、心の癒されるひととき。三十六歌仙画像を有する実光院は庭を歩けるのが嬉しい。

大原バス停(20分) 寂光院(35分) 音無の滝(15分) 三千院(3分) 勝林院・宝泉院(10分) 大原バス停

地形図 2万5千11大原 費用 京都駅前→大原 580円 寂光院 600円 三千院 700円 宝泉院 (茶葉付) 800円

問い合わせ先 寂光院 ☎075(744) 3341 三千院 ☎075(744) 2531 宝泉院 ☎075(744) 2409



ギャラリー

越後(棚田と美人林)  
武市通治

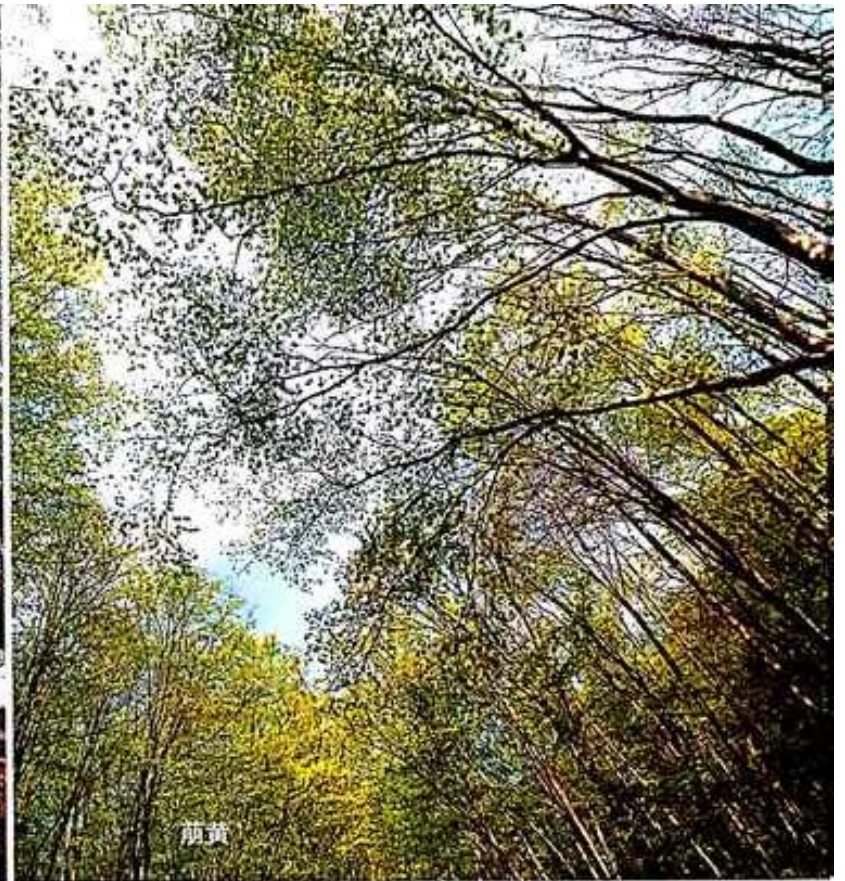
遅い春



雪解け



ブナ姉妹



萌黄



残雪

京阪神から「青春18きっぷ」での日帰り山行2

連載

# 飯田線の山

金谷 昭

## 2 飯田線沿いの山

飯田線の列車本数は少ないが、豊橋駅での朝の東海道本線新快速との連絡はよく、東海道線が遅れた際には飯田線の出発を遅らせて間に合ったことが幾度かあった。

本長篠駅より以南の各駅からの山が日帰り可能な範囲である。

### イ本宮山 (三河本宮山) (7891)

2万5千≡新城・高里)

山頂には三河一の宮・砥鹿神社を祀る霊山で三河富士として有名で人気の山である。飯田線長山駅から往復登山できる。一等三角点峰でもある。(コースガイド①参照)

### 口鳳来寺山 (6821) 2万5千

≡三河大野)

仏法僧で有名な霊山。本長篠駅よりバスにて終点の鳳来寺で下車。古くからの参道を登って鳳来寺、そして山頂へ。下山は迂回して三河大野駅に下りる。なお、バス始発駅はJRの駅前より離れているので注意。

八明神山・乳岩 (6751) 2万5千≡三河本郷)

三河川合駅下車。奥三河の名山・明神山 (10161) への登頂は時間的に無理だが、この山域の天竜奥三河国定公園の乳岩峽と鳳来寺湖等の岩峰や峽谷美が楽しめる。

飯田線での日帰り範囲の最遠となる。

二吉祥山 (3821) 2万5千≡新城)

本宮山と豊川を隔てて左岸に対立する山。東上駅か野田城駅下車。豊川に架かる海倉橋を渡って取り付く。山頂付近は愛知県自然保護地域に指定され、頂上の展望もすぐれている。(コースガイド②参照)

本宮山の西南にあるこんもりとした低山で地形図には山名記載なし。本宮山と同じ長山駅下車して往復するが、山の取付点がわかりづらかつた。登山は5時間30分程。

コースガイド

初級コース(★)

## 三河・本宮山

ほんぐうざん

初級コース(★)

本宮山は、東海道線で豊橋市の西を流れる豊川を渡る頃、車窓から北を望むと東岸の異様な突峰の石巻山(3561)に対峙して西岸にピラミダルな姿のよい山容を現し、地元民から三河富士として親しまれ、(両山は高さを競い合った伝説がある)三

河の国の一の宮砥鹿神社の奥宮を祀る霊山である。

三河本宮山登山口と鳥居



最近山頂付近に電波塔が林立し、山頂に達するドライブウェイも設けられるなど、景観を妨げる人工物が多くなっていささか名声を落としたが、今なお東三河の名山に変わりはない。

本宮山の西北に食い入る開刈溪谷沿いの砥鹿神社の本殿からの表参道を利用すれば変化に富む山歩きができるが、今回は青春18きっぷ利用のため、JR飯田線長山駅から南尾根に設けられた旧参道の往復とした。別の機会に開刈溪谷沿いの表参道歩きをしたいものである。

無人の長山駅で下車して東に向かい、駅前の公道をたどるとなると遠回りとなるので、ホームの橋を越えて空地を横切って道路に出て、右に山へと向かう。ゆるやかに登って愛

# コースガイド



知用水の水路を跨ぎ、しばらく行くと県道に出合い、横断すると道路左に登山者用駐車場と休憩所が、また左には塵埃焼却施設の余熱利用の「本宮の湯」が出てくる。下山後、時間あれば入浴可能である。

登山口には石の鳥居と「本宮山登山口」の大きな柱、それに丁石が建っている。ここから始まる登山道は頂上まで五十丁となっている。鳥居をくぐると幅の広い石の階段が始まり、温暖地域の照葉樹林で、木名板が付けられているのは地元学童の登山が多いのであろう。

十丁が済むまでは急登の石段登りであるが、

山頂近くの奥宮神域に入る



以後は少しゆるやかとなり、峙らしくもない尾根の小さなコブの鞍部のうぐいす峠を越える。林道が横切り、さらに二十六丁付近から岩尾根となり、馬の背岩を越えると展望が良く、時計付きの東屋が出てくる。

昼食には時間的にも最適な所、ゆるやかに流れる豊川とその向こうの吉祥山(382m)の円峰などの眺望を愛でながらの休憩となる。

昼食を終え、三十七丁の鳥居をく

三河本宮山山頂より南望



ぐって奥宮の神域に入り、巨木杉と岩が多くなる。石の表面に幾筋もの傷のある山姥の足跡岩を越すと林道に飛び出す。林道を横断する正面の岩登りの行者道を避け、道標に従って林道を左に100m程行き右に折れ、一般道を行く。

トイレの水場を過ぎ鳥居をくぐると、やがて五十丁石にたどり着くと、頂上砥鹿神社の奥宮へはさらに石の階段を登らねばならない。奥宮本殿の手前に荒羽気神社が出てきたが、

何んと健脚を折る登山者にふさわしい神様であった。すぐ石垣の上に奥宮拝殿と休憩所が出てきて社殿の右側(東側)に富士山遥拝所が設けられている。

奥宮参拝後、頂上へは神木となっている巨大杉の脇を過ぎて真っ赤な大鳥居をくぐり、スカイライン道路を砥鹿橋を渡って横断し、電波塔の林立する山頂台地に登る。一等三角点(点名三本宮山 789・16m)と天測点の標石が電波塔に遠慮するようにたたずんでいる。

下山は、往路の参道を所どころで得られる展望を楽しみながら戻ればよい。

(平成5年1月・平成18年1月歩く)

## コースタイム

JR長山駅(30分) 登山口一丁(1時間) 展望台・東屋(25分) 水場(30分) 奥宮(20分) 本宮山(15分) 奥宮(25分) 水場(25分) 展望台・東屋(55分) 登山口(25分) 長山駅

**地形図**  
2万5千:新城・高里

# 東三河・吉祥山

初級コース(★)

東三河の名山・三河本宮山と豊川を挟んで対峙している独立峰の吉祥山は豊橋市の西手前のJR東海道線の豊川鉄橋から、なだらかな円峰の山容が望める。

青春18きっぷを利用して日帰りしたが、大垣駅で折り返しの新快速の到着が遅れ、終点豊橋駅には15分延着した。幸い飯田線の上諏訪行き

発車を遅らせて連絡がうまくいった。やはり民営化されたからこそそのJRの配慮であろうか。

無人の東上駅にて下車。豊川畔に出るべく東に行く。国道に出て左へ。

三差路で右にとり国道を離れ、集落を抜けて豊川の開けた土手に出た。対岸には新緑のまばゆい吉祥山の円峰を前にするが、対岸に渡る海倉橋ははるか彼方となつて時間はたつぷりとかかりそうである。

そこはひとり旅の気楽さで付近の景色を愛でながら案外早く海倉橋に着いた。橋の欄干には羽衣姿の吉祥天女のレリーフが付けられていた。橋は洪水調整用



堰堤ともなっている。渡った土合側には桜の咲く小公園となつている。土合集落を抜けて愛知用水の宇利川の大谷橋を渡ると、林道始点の三差路となり道標がある。左にはゴルフ場経由の登山路、右には砂利敷きの林道で直接山頂に向かうものであった。

吉祥山山頂



杉と檜の植林のなかをゆるやかに登って行く。第一分岐は道標より右に、第二分岐は道標が無く、ここも右に行くとも山側にゴミの分場？。すぐ上に溜池があり、林道のカーブ部分のコンクリート舗装となつていて所を過ぎると、中部電力の送電塔No.7とNo.8の看板のある分岐となつた。ここはNo.7送電塔の左をとり、ゆるやかに登って行く、このあたりから雑木林を交えて再び分岐となる。右の送電塔No.7と山頂への道標をとり、しばらく行くと林道終点となり送電塔No.7が建ち登山口であった。

道標に従って山側(左)の歩道に入る。直線的であるがゆるやかに登

って行く。道標のある分岐が出てきて左の登り方向でなく、右のやや下り気味に山を捲く方向に指示がある。道標が無ければ迷うであろう。さらに行き、林道を横断して登って行くと尾根に出る。左に尾根を登って行くが、登山道は右の新城市側は植林、左の豊橋市側は雑木林との境界線にある。境界杭と赤テープが出てくると、この稜線の開かれた所から山桜の咲く新緑の山頂らしきが望めた。山頂近くになってシイ・ナラ・タブなどの巨木の原生林の様相を示してきて「愛知県吉祥山自然保護地域」の説明板と山名由来となつた吉祥天女の祠が出てきた。ここ

豊川左岸より吉祥山を望む



から頂上へは九太階段の急登となった。  
階段を登り切ると狭いが全開の明るい頂上広場で、三等三角点(382・1) 点名西川村)とプレート  
の菱形測量点、それにベンチが二つ置かれている。展望はすばらしく3

60度全開。本日は春霞のため富士山・南アルプス・奥三河の山は見えなかったが、西の一等三角点の三河本宮山、南に石巻山、東に一等三角点の富嶽山、北に鳳来寺山が望めた。  
大休憩で昼食をとっている南ルートから犬連れに近い住人の古老が

吉祥山 (山頂近くの自然環境保護地域、奥に吉祥天の祠)



登って来られ、さらに古老とお知り合いの老夫婦が登って来られ、地元では馴染みの山となっているようである。

ゆっくりとしたいところだが、帰りのJRの時間を考えて往路を忠実に下山した。早く東上駅に着き、予定より早く帰京することができた。  
(平成21年4月7日歩く)

**参考タイム**

JR 東上駅 11・20 | 海倉橋 11・54 |  
林道始線 12・00 | 林道終点 12・34 |  
吉祥山 13・06 (昼食) | 13・28 | 林道  
始点 14・15 | 東上駅 14・55

**地形図**

2万5千Ⅱ新城

アルピニストとハイカーがまとめた

# 一等三角点総覧

一等三角点研究会編集・(株) 日本測量協会発行

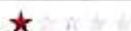
A5判・一五一頁・定価一三〇〇円

「一等三角点」は、正確な日本の地図を作成するために明治時代から設置されている測量の基準となる点で、標石が埋石され、我が国の近代化を支えた文化財ともいえるもので、今では、様々な地図が溢れています。この測量標石が基準になっています。国土地理院でも総覧でこのような資料はありませんでした。用語解説なども記載。

購入希望者には、一冊一七〇円(送料込)で取り扱い中  
郵便振替番号 0100-4-2071 加入者名 一等三角点研究会  
〒621-0825 亀岡市篠町山本南条 20-16 高坂 清方 一等三角点研究会

市原から落葉広葉樹林の

こうやま  
神山



松尾一郎

このコース、地図上の旧峠道は全く廃道と化し、地形図の読図力が求められ、かつして300mの低山と侮ってはならない。反面、神山は山城の多くが国有林に属し、都市近郊の里山には珍しく、北面一帯は落葉広葉樹林に覆われブナ科の木々も散見され、思いのほか自然豊かな山で、新緑・紅葉の時期が楽しみだ。

また、神山は上賀茂神社の御神体の山でもあり、下山後には葵祭で有名な上賀茂神社へも立ち寄ってみよう。

西方に神山を望み、市原の住宅街を行く



叡電出町柳駅から鞍馬行きに乗車し、市原駅で下車する。鞍馬街道（府道38号）に出て左にとる。車道左端を南進し、切り通し状の登り歩道を乗っ越すと、小町寺バス停だ。バス停先の交差点を右へ入り、舗装路を西進する。前方に神山を望みながら、住宅街を行くと、老人保健施設「友々苑」の玄関前が出る。車道はここで終わりだ。

ここから草むす地道となり、行く手には看板の掛かる門扉が立ち、扉の右から擦り抜けると、荒地地状の

「友々苑」近くから神山を西方に望む



原っぱに出る。荒地地にかすかに残る踏跡を頼りに奥へ進むと、高野川支流で長代川源流部の支川（枝沢）が現れ、草木の茂る沢沿いに道無き道をルート（おおむね右岸）を拾いながら溯行する。

やがて山も深まり二股に着く。注意を要する地点で、沢に挟まれ、崩れた石垣状の尾根の突端に上がる。後は尾根を南西方向に方角を確認しながら進み、主尾根を指して慎重に登ってゆく。主尾根に出ると後は忠実に尾根通しにルートを選び山頂

「友々苑」西側から神山への廃道状の旧道を見る  
(左奥に沢が流れている)



を指す。

このあたりは神山国有林で都市近郊の山ではまれにブナやミズナラが散見され、シラカシなども多い。尾根道が明るくなるころ、かすかに踏跡が残り、前方（南）より終野からのコースに合流し、左へ樹林の尾根をひと登りで神山（301・41・三等三角点）山頂に登り着く。

見晴らしは樹木が茂り期待できない。山頂から南側すぐ奥に珪石群が露出しており、上賀茂神社の降臨石と伝えられ、標縄で囲ってある。

# コースガイド



神山山頂 (三角点の一角が欠けている)



下山は柘野からのルートに入り、尾根を南西方向に進むと、山道に黄色の石柱が埋まっております、ここが柘野下降点で標示に従い左へ下りる。ルートはほぼ南方向へくだって行き、途中、白木の木肌に黄色標示があり目印となる。

やがて水流が現れ、足場の悪い小沢を右・左岸と渡り返ししながら、林道に下り立つ。竹やぶの林道を抜けると、立命館大学総合グラウンドの裏門前が出る。柘野バス停へはここを通り抜けて行けるが、便数は極めて少ない。

上賀茂神社方面へはアーチエリー

柘野の竹やぶに囲まれた林道



練習場をかすめ、山麓の田園風景の里道を南に行く。貴船神社前を通り過ぎ、あとは道なりに行けばバス道(府道38号)に出る。信号を渡り歩道を右へ進むと、ゴルフ場前バス停に着く。

さらに車道を南下すれば柘野別れバス停、すぐに柘野交番前を過ぎ、

加茂川分流の明神川に架かる葵の森橋を渡り、すぐ左へ明神川右岸沿い小道を下りる。小川沿いに住宅街を南進し、さらに行くと裏手から上賀茂神社境内に入り、社務所前に入る。参拝が済めば、上賀茂神社前バス停から各方面へバスが頻発している。

また、時間・体力が許せば上賀茂神社でパンフレット「京都歩くマップ/上賀茂・北山」を買って、大田ノ沢のカキツバタや水生植物の宝庫の深泥池へ足をのばすのもよいだろう。

深泥池から地下鉄烏丸線北山駅へは、南へ約700mだ。

(平成22年5月8日・15日歩く)

## コースタイム

- 叡電市原駅(11分)小町寺交叉点(10分)「友々苑」(15分)沢二股(23分)柘野道出合(7分)神山(5分)柘野道出合(5分)柘野下降点(20分)竹やぶ林道(8分)立命館大グラウンド裏門(10分)貴船神社(13分)ゴルフ場前バス停(6分)柘野別れ(10分)上賀茂神社(12分)大田神社(カキツバタ)(13分)深泥池(水生植物)(12分)地下鉄北山駅
- 地形図**  
2万5千 京都東北部



## 航空灯台のあった山③

じょうがやま  
嫦娥山

★★

柴田 昭彦

国土地理院近畿地方測量部によれば、昭和42年御津町役場作成の地名調書に「嫦娥山」とあり、現在の地形図に、この山名が記載されている根拠となっている。

ところが、掛保郡役所編纂「掛保郡誌」（明治36年、一五二頁）には、明確に「嫦娥山」と記載されており、「嫦娥山」ではない。

「兵庫県掛保郡 御津町全図」（2万5千分の1、昭和46年11月調製、御津町役場）と「兵庫県掛保郡 御津町管内図」（1万分の1、昭和47年7月調製）も「嫦娥山」である。

松本保一・松本綾子編著「ふるさと御津」（葦潮社、昭和54年）には次の記載がある。

「嫦娥山（高さ二六五、八m）嫦娥とは月の異名である。昭和の初め灯台があつて、その灯が廻転して、夜はきれいであつたが知っている人は少からう。この灯台は戦争のため撤去された。」

松本保一氏は御津町生まれで、大阪で校長をされた方である。

「御津町史 第四巻」（平成11年）の付図1「御津町の大字・小字図」には、大字「室津」の小字に「嫦娥山」とあり、原図の1万分の1「御津町管内図」（平成9年3月修正）に

見える山名も「嫦娥山」である。「御津町埋蔵文化財分布調査報告書」（平成9年3月）に使用されている地図も同様である。

以上のとおり、地元の御津町室津では例外なく「嫦娥山」が用いられており、地形図の記載に忠実に従った人達だけが、誤記の「嫦娥山」を用いているということになる。

室津海駅館でもらった手書きの「室津街道イラストマップ」に「嫦娥山への山道」とあり、海駅館内に拠点を置く「鶴屋」友の会発行の「会報 むろのつ」第九号（平成14年9月）に掲載された地名研究家の田中早春さんの「地名の話9 山の地名 日和山・嫦娥山」に次のようにあるのが決定版となろう。

「嫦娥山の標高は二六五、八メートルと御津町では一番高く、この山の高さと目いっばいに広がる青い空、その青空に溶け込むようなおだやかなブルーの海、この視界をささげるものが何も無い、という室津の地理的条件がもたらした月の伝説に彩られた山なのです。山名の嫦娥とは不老不死の命を持つ月の精の名前で、元の名を嫦娥といいます。中国の古典の中にこの話が収められていますので紹介いたします。『羿が不老

不死の薬を月に住む仙人である西王母に頼み、やっと手に入れることができたのですが、羿が飲まないうちに妻の嫦娥がこれを密かに盗んで月の国へ一人行ってしまいました、そして薬を飲み月の精となった」というこの物語の根底にあるものは回春伝説といわれ、たとえ死んだとしてもふたたび命が甦えることや若返るなどのことを語りに託して伝えられたと言われています。」

「室津には異国をはじめ国中の商人が集まり、それにつれていろいろな階級の人たちが出入りしたことでしょう。これらの人たちは物品だけでなくきつと多くのカルチャー情報をもたらしたに違いありません。一八〇度の展望を誇る室津の高峰に、もつとも似つかわしい常世への願望を込めた月の伝説を取り入れ、山に嫦娥の名を付けたのではないかと考えられるのです。」

町内の権現山で発掘が行われたとき、他の出土品に混じって五枚の神獸鏡がみつかりましたが、このなかの一枚に東王父と西王母の刻影を見つけたときの、胸の高鳴りをいまさうのように思い返す今日このごろです。」

辞典類を調べると、「嫦娥」は月世

今回は、兵庫県たつの市御津町の室津航空灯台を紹介する。その所在地の山名は「嫦娥山」が正しく、「嫦娥山」は誤りである。

室津の北方、標高265・8mの山に対する、地形図での最初の呼称は「嫦娥山」で、2万5千分の1地形図「網干」（大正12年測図・昭和22年修正測図、昭和24年発行）にある。5万分1地形図「姫路」（昭和26年修正発行）でも同様で、当時は室津村である。

# コースガイド



界に住む美人仙女の名で、「姫城」ともいうとあるので、「姫」は誤植である。漢の文帝の諱である「恒」と旁が共通な「姫」を避け、漢人が「恒」を「姫」に書き改め、俗字として用いた。後世には「姫」と読むようになった。

月の姫城伝説は、日本の「かくや姫」型伝説のルーツであり、中国初の月周回衛星「嫦娥1号」(2007~9年)の由来でもある。

嫦娥は人名であるから、嫦娥と書くのは間違いである。「娥」は山の高く険しい様を表す漢字で、全くの

別字である。おそらく、昭和22年に地名調査の提出を求められた室津村の担当者が、人名の嫦娥に由来する山名を、不注意にも「嫦娥山」と誤記したのであろう。室津では誰もが「嫦娥山」と書いて疑う者はいない。なお、嫦娥に由来する地名には嫦娥島(老枝市)と嫦娥岳(伊那市)がある。

近畿地方測量部に山名の出典資料を提供し、調査を依頼した(平成21年11月)ので、確認後に、地形図の山名も訂正されることだろう。

JR姫路駅を出て、山陽電鉄に向かい、山陽姫路駅から本線に乗り、飾磨駅で網干線に乗り換え、山陽網干駅で降りる。

駅の改札を出て進むと、すぐ左手に神姫バス(山陽網干バス)の山電網干バス停がある。11時42分発(土日、平日は10分早い)の御津病院へ大浦行きに乗り、

岩見西口バス停で降りる。すでに12時なので、室津バス停の最終便(毎日16時43分)までの行動時間は4時間半となる。

バス停から南へ少し歩くと右側に「すばる坂」の入口がある。料理旅館名田忠山荘・レストランアイレットまで、車道のスバル坂を上がる。舗装道の終点で右に上がり、レストランに立ち寄り、坂の名前の由来を尋ねた。坂名はマスターの命名で、ここからは、夜、星の昇が綺麗に見えるからだという。山荘は平成3、4年頃に開業したとのことだった。

山荘のHP「すばる坂日記」(2004年3月17日)には、「すばる坂」の由来は20年ほど前、ハレー彗星観測の天文ファンの声の中から生まれました。東南の空に広がる天体ショーを眺める好適地です」とある。

ダイセル化学工業の敷地へは、以前は入れたが、10年ほど前にフェンス(有刺鉄線)が張られてから立入禁止になったという。

旅館の下の舗装道終点から、まっすぐに坂道を上がる。道はえぐれて崩れ荒廃している。やがて、左手が広場になった場所に出る。フェンスの手前で草の茂るなかを、左へ踏跡をたどる。「Z山登山口」から急坂を

上がり、左手の縦走路を歩く。尾根の少し左側に道が続く。次のピーク(標高228m)がZ山である。山頂は岩が散在し、古い道標に「ジェット山山頂253M」とあり、標高が間違っている。岩見の人達は「ゼットやま」「ジェットさん」などと呼ぶ。無名だと不便なので、ずっと昔から、東から西へ順番に、X山(175m)・Y山(252m)・Z山と便宜的に名付けて用いているというらしい。

岩場をくだる。左手に展望が楽しめる。峠の左側を捲いて、御津山脈

ジェット山山頂



眺め岩からの展望



縦走路の急坂を、補助ロープを使いながら上がる。途中の分岐で右を上がり、少し左に下がり、すぐ右に向かう。ここから、258・8mピークの尾根道の左側をからむように歩くことになる。ピークの手前に「眺め岩」がある。小さな岩場で、文字通りの好展望が開けている。

姥峨山山頂



作りの道標には「姥峨山山頂上265M」とあり、地元での山名表記を裏付けている。

ダイセルの標柱のそばに三等三角点標石がある。その8m先に石が詰めてある1.1・2m幅の穴があり、1・7m先にも同様の深さ1mほどの穴がある。穴は四カ所にあり、ここが、室津航空灯台基礎の撤去跡である。

昭和8〜20年に航空灯台があり、午前5時半から日出までと、日没から午後7時半まで点灯され、高さ15mの鉄塔頂上に設置された灯器が13

室津航空灯台の基礎コンクリート撤去跡の穴  
(姥峨山山頂上)



秒を隔てて7秒間に白1回、赤1回の閃光を發し、明るさは266万燭光で、光の到達距離は75mであった。室津で灯台を知る人達は、思い出話で「飛行とう」と呼ぶ。

山頂からは、南へ赤テープに従い、尾根道をくだり、室津バス停の少し西側に出ることもできるが、健脚向きである。ここは、三角点から北東に続く一般向きコースをたどり、北から西へ急坂を下りて、江戸時代の紀行文(大田南畝)の鳩胸峠(標高150m)に出る。ここに「鳩ヶ峰室津街道」という道標があるが、今

の「鳩ヶ峰」は、明治時代に開通した屋津坂の峠(108m)を指している。

鳩胸峠から、江戸時代の室津街道をたどる。平坦な道が続く。ほどなく「みはらし峠」で大浦湾が見える。右側に石垣があり、その先の右手が「井戸跡」と「お茶屋跡」である。

竹の密生地を抜けると、左手が、くすの木広場である。道は右に曲がつてくだり、最後ははっきりと車道に出る。そこから左(東)へ250mほど歩いて、室津バス停に向かい、山電網干行きの最終便(毎日16時43分)に乗って帰る(所要32分)。

時間に余裕があれば、室津海駅館、賀茂神社、藻振鼻、日和山(藻振鼻の東、親天望気の丘、標高44m)、遠見番所跡、室山城跡、二ノ丸公園などを巡るのもよいだろう。

(平成21年11月3日歩く)

### コースタイム

岩見西口バス停(50分)乙山山頂(1時間10分)姥峨山山頂(25分)鳩胸峠(1時間10分)室津バス停(15分)賀茂神社(15分)藻振鼻(20分)室津バス停

### 地形図

2万5千1網干

# 山行報告

1・2月

## 六甲 水晶谷と白石谷

1月4日(火) 晴れ

(集合)JR住吉駅 8・16 (バス)エクセル東 8・26 | 西滝ヶ谷分岐 9・10 | 谷へ 9・20 | 二俣 (水晶谷へ) | 二俣 (右へ) 10・35 | 二俣 (極楽谷へ) 10・45 | 水晶滝上部 11・15 | 極楽茶屋跡 12・05 (昼食) 12・40 | 軒茶屋 13・15 | 25 | 白竜滝 14・10 | 白石滝 14・25 | 30 | 紅葉谷出合 14・40 | 50 | 有馬温泉 15・30 (解散)

住吉川から西滝ヶ谷に入ると、冬でもイバラが残るやぶっぽい路跡になる。途中、何度も左へ右へと渡渉し、数多くの堰堤を乗り越え、水晶谷から極楽谷へ入った。汗ばんでいるのに、極楽谷への分岐は滝の巻き道が危なっかしく冷や汗も。下りの白石谷も、狭い谷沿いの路跡を行くため気が抜けない。終点の温泉は混雑していたが、冷えた体をあたためることができた。(首藤育子)

- 参加者 多賀久子 塩尻香織  
小谷和子 三井絃一 橋本紀代子  
田中明 首藤育子 北村つねみ  
岩嶋健司 稲津謙治 ○上住忠雄  
古賀慶二 (計12名)

## 丹波 行者山から湯の花温泉

(金曜里山ハイク35)

1月7日(金) 晴れ時々雪

(集合)JR千代川駅 8・40 | 45 | 松尾神社 9・10 | 行者山登山口 9・20 | 25 | 菩薩岩 10・00 | 10 | 行者山 10・25 | 35 | 千手寺 (独鈷観音) 11・00 (昼食) 11・40 | 瑞巖寺 12・30 | 湯の花温泉「烟河」 13・00 (入浴) 14・15 (バス) 亀岡駅 14・30 (解散)

行者山ハイキングコースを歩いた。菩薩岩の行者堂まで登ると、山頂はすぐ。記念集合写真を撮って薄く積もった雪の尾根道をたどった。下山後、温泉でゆったりとあたたまり、無料の送迎バスで亀岡駅へ戻った。

- 参加者 長沢佑美 中川光郎  
林 義朗 鈴木恒男 下山登  
西嶋芳洋 小森 浩 大林 進  
田辺弘子 大東 哲 岡田かよ子  
鮫田二郎 林 信男 松上美代子  
夏山春子 山縣勝美 妹尾一正  
村田智俊 (計18名)

## 熊野古道ウオーク紀伊路① 紀北 布施屋駅から海南駅

(週末ハイク119)

1月8日(土) 晴れ

(集合)JR布施屋駅 9・15 | 30 | 吐前王子 川端王子 10・00 | 和佐王子 10・50 | 矢田峠 11・00 | 平緒王子 11・50 | 伊太郎

谷化を知らぬ山ので湯

野天風山 山菜料理

南志賀高原

五色の湯旅館

〒3882-10800

長野県上高井郡高山村五色温泉

電話 026-24212500

富士中央交通株式会社

山梨県南都留郡富士河口湖町船津

電話 0555-7212077

FAX 0555-7212079

日本アルプス 穂ヶ岳 山荘

穂ヶ岳登山の基地 新緑と紅葉の

穂ヶ岳 山荘

〒390-0813

長野県松本市埋蔵1-7-2

電話 0263-3517200

(事務所)

日本百名山の車山そば、八島温泉  
や資料山へもアクセスが良し

和食の宿 フチホテル花南

1泊2食付9800円

〒391-0301

長野県茅野市北山3-4-13 車山高原

電話 0266-6812077

http://www.cvr.ne.jp/~phikanan/

無言館・松代大本營・真田一族史  
跡ガイド・奥子宿・四河山登山・  
牧場・パド・ウォッチング山・  
1泊2食9800円(上田IC25分)

雪平高原

フチホテル リすの森

〒3880-12204

長野県上田市雪平高原スリス村

電話 0268-7412885

http://www.fujihotelre.jp/fisu/

日光・足尾の登山に便利なバス・タクシー  
の二利用を、ご予約いただければ皇朝配車  
可航(中型タクシー5人、シャトルタク  
シー9人、マイクروبス28人、中型バ  
ス33人)等各種ご利用いただけます。

三英自動車株式会社

バス・タクシー

電話 0288-5411300

FAX 0288-5413026

山と音楽を愛する家族的な宿

ミネラル温泉旅館 戸隠

味める戸隠山は最高

戸隠高原

ロジック・アコルテ

〒380-14101

長野県長野市上野原水ヶの

電話 026-225413078

発見!! 天然岩魚 食虫植物モウセンコ

ク/ホテルのライプツァムラで冬の四季

を見られます。岩登山・焼山登山口へ

送迎いたします。

ホテルむつみ 竹節

〒380-10401

長野県下高井郡山内町志賀高原一の瀬

電話 0269-3412706

http://www.shigakogen.jp/mulsum/

信濃(ロング)トレイル全線(約80km)

信濃(ロング)トレイル全線(約80km)

北信州一帯の山々の絶景です。

手袋・料理・温泉でサポーターです。

北信州 天然内湯の宿

戸隠温泉 メイフルハイム

〒3889-2411

長野県飯山市戸隠温泉スキー場

電話 0269-6512008

F 0269-6511266

http://homepage2.nifty.com/honpale/

京都・奥美濃の山梨川と川床料理

飯山山・飯山山・飯山山・飯山山

飯山山・飯山山・飯山山・飯山山

夏は京料理旅館 登山口送迎対応

運流の宿

料理旅館 兵衛

〒601-1112



白石谷白竜滝にて (古賀慶二)



白石谷に行く (古賀慶二)



和佐王子跡 (森井 潔)



行者山山頂にて (村田智俊)

●(参加者の山行記)  
 ●年が明けて大きな寒波が来ているが、熊野古道・紀伊路は絶好の快晴と無風で温暖な気候。きょうは狩野

- 浅野 剛 ○下郡正年 ○仲谷礼司 (計26名)
- |      |       |       |
|------|-------|-------|
| 小田潤子 | 朝倉俊雄  | 船本裕巳子 |
| 馬淵晶子 | 西上和和  | 北村つねみ |
| 高橋舞治 | 奥比裕美  | 中嶋日出男 |
| 川村信子 | 加藤浩二  | 河内正治  |
| 有吉桂三 | 宮崎靖久  | 宮崎由美子 |
| 岩田育士 | 岡崎知子  | 山本幸子  |
| 森井 潔 | 森井順子  | 川島英子  |
| 後藤智之 | 佐々木輝子 |       |

●(参加者)  
 ●狩野リーダーの都合により仲谷が代行した。

熊野古道のひとつ紀伊路の最初は昔から町の中を通っていたようで、この区間も民家の中の狭い道(別名小栗街道、古道の印象を今に残している)を歩くことになった。のんびりした田園の風景は昔から変わらないものなのだろう。往時の旅人の無事を祈ったという「王子」の祠やお地藏さんを見ながら歩いた。途中、みかん畑で大量のみかんを貰う一幕もあった。吐前王子は道路事情により途中で引き返した。

曾神社12・10(昼食)13・00—奈久智王子13・25—武内神社13・45—光明寺14・30—40—松坂王子14・50—沙見峠15・05—松代王子・春日神社15・30—菩提房王子15・50—海南駅16・15—20(解散)

- (参加者)  
 ●山田明男
- |      |      |       |
|------|------|-------|
| 川島勝美 | 国井文男 | 伊藤恵美子 |
| 石井照雄 | 竹内正子 | 生越恵美子 |
| 佐治 登 | 鈴木 浩 | 鈴木友子  |
| 佐治光江 | 佐治光江 | 白木やす子 |
- (計12名)

初歩きは金華山で三角点を七つ巡れた。好天で暖かくて見晴らしも良かったから皆満足。八個目の陸軍省三角点は、岐阜城の下にあり、見られなかった。

1月8日(出) 晴れ  
 (集合) JR西岐阜駅 8・15(車) 岩戸公園 8・40—50—七曲—四等三角点 9・20—七曲峠三角点 9・30—東坂三角点 9・47—山頂展望台 10・12—金華山(二等三角点) 10・22—岐阜城前三角点 10・26—西山四等三角点 11・20—麓の鉄塔 11・35(昼食) 12・00—尾根末端 12・15—洞山 13・05—岩戸公園 13・40(善哉会) 14・10(車) 西岐阜駅 14・30(解散)

【美】金華山

(展望の山76)

リーダーが急ぎよ参加できなくなり、仲谷リーダーに先導していただいた。叶前王子が見つからず、出だしで時間がかかったが、以降は快調に各王子跡を巡ることができた。海南駅には予定より15分早く到着できた。お疲れ様でした。  
 (森井 潔)



宇曾川ダムへくだる (一芝義雄)



山比古地藏にてみんなでウサギのポーズ (一芝義雄)



雪に埋まった薬師峠の六地藏 (多田 徳)



大森から薬師峠へ (森井 潔)

1月10日祝 雪時々晴れ

京都北山 棧敷ヶ岳から天童山

(京都北山歩き143)

- 参加者
- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 山田景三  | 鈴木恒男  | 緒方由子  |
| 滝川 登  | 永戸鉄治  | 白木やす子 |
| 武村千鶴  | 高原芳彦  | 奥野太一郎 |
| 木下朝子  | 高橋舜治  | 小川富士雄 |
| 貴堂雅路  | 栗本敏夫  | 加納由紀子 |
| 青木一雄  | 小松志信  | 石井ひろ美 |
| 谷 守   | 櫻田勝利  | 居原田幸弘 |
| 大西脩郎  | 磯部 純  | 一芝美知子 |
| ○岩野 明 | ○一芝義雄 | ○後藤康幸 |
- (計27名)

松尾寺山・高取山・向山

(鈴鹿を歩く347)

1月9日(日) 晴れ  
 (集合) 国道307号道の駅8・25 (車)  
 宇曾川ダム広場8・45 | 松尾寺山10・00  
 | 高取山11・35 (昼食) 12・20 | 向山12・  
 45 | 山比古峠13・30 | 山比古地藏14・15  
 | ダム広場14・45 (解散)

積雪は20〜30センチで初歩きの冬山登山は快適。松尾寺山の尾根からは眼下に広がる湖東平野と琵琶湖、もともととした里山と集落、比良山系から鈴鹿の雲仙山と続く白銀の峰々。湖東の里山三山縦走は最高。自然林の尾根は四季を通じて歩きたくなるルートだった。

(集合) JR京都駅7・40 (バス) 大森8・50 | 9・20 | 薬師峠10・30 | 岩茸山付近11・50 (昼食) 12・30 | 薬師峠13・20 | 大森13・50 | 14・20 (バス) 京都駅15・40 (解散)

豪雪で祖父谷林道へはバスが入れないと思いき、大森から薬師峠へ取り付いた。稜線は1日の積雪で全くトレースが無い。ラッセルして登高するも、雪と厳しい寒さで昼食後に撤退することにした。上り2時間30分、下り1時間。それでも、北山の雪景色を見ながら歩いて満足した。

- 参加者
- |       |      |       |
|-------|------|-------|
| 入江 勲  | 後藤智之 | 渡部和美  |
| 後藤純子  | 川戸せつ | 橋本紀代子 |
| 池田繁子  | 沖 伸  | 氷見真砂子 |
| 森井 潔  | 鈴木恒男 | 井上恭子  |
| 田中 明  | 三輪直文 | 武部美美子 |
| 三好満子  | 島田 廣 | 相生村京子 |
| 西嶋芳洋  | 林 正義 | 北川さゆり |
| 多田 徳  | 大嶋 勉 | 日高良一  |
| 福本愛子  | 小池一郎 | 岡田かよ子 |
| 中川善弘  | 針谷邦夫 | 針谷静子  |
| 加藤浩二  | 中西和子 | 名加恵美子 |
| 渡辺佳治  | 牧 和夫 | 大西世津子 |
| ○岡本正明 | 秀田順子 | 小林 桂  |
| ○村田智俊 |      |       |
- (計40名)

(参加者の山行記)  
 ●京都北山周辺では、年末年始に降り積もった雪が場所によっては1メートルを超えていたようである。前日9日に歩いた花折峠でも60センチ以上の積雪があったから、棧敷ヶ岳も同様だろ

うと思ひ、ワカンと八本爪アイゼンを用意して自宅を出た。

集合後、バス車内で村田リーダーから「積雪が多いのでコース変更してバスが登山口まで入る大森キャンブ場から登る」との説明を聞き、納得した。大森集落は完全に雪の中で白一色の世界だった。

大森から歩き始めたが、先行のトレースがないためスノーシューやワカンの人が交代でラッセルし、ようやく薬師峠に着いた。積敷ヶ岳を指して尾根伝いに北上するが、雪はさらに深く、踏跡もかなり古いものでラッセルの助けにならず、昼前になってやっと岩茸山直下にたどり着くのが精一杯だった。

昼食後、このペースでは積敷ヶ岳までとでも行き着けそうにないので、ここから引き返すことになった。下山は40名の踏跡を戻るのでしつかり固まってアイゼンも要らないほど、わずか1時間10分で大森へ下山できた。  
(森井 選)

**送り火の山3**  
**左大文字山から衣笠山**  
(ゆっくり歩こう15)

1月12日(水) 晴れ  
(集合)金閣寺バス停10:00—左大文字登山口10:15—火床10:25—40—下山11:30—身代わり不動尊11:45—衣笠山12:10(昼食)13:00—堀河天皇陵13:10—

字多野天皇陵13:50—仁和寺14:15—20(解散)

左大文字も入山許可が必要である。「大」の文字は大きくはないが、この山からの京都盆地の展望は広範囲ですばらしい。下山して衣笠山で昼食にしたが、周囲の木々が大きくなり展望がなくなったのは残念である。ここも左大文字山保存会の範囲である。午後からは竜安寺の奥山を一周する形で仁和寺に抜けた。天気に恵まれて陽だまりハイイクの一日であった。

**参加者**

- |        |       |        |
|--------|-------|--------|
| 兼田幸子   | 長沢佑美  | 村岡雄志郎  |
| 岡本和子   | 中川光郎  | 別所 晃   |
| 林 義朗   | 渡辺いく  | 佐々木輝子  |
| 田中 明   | 鈴木恒男  | 水本加津榮  |
| 山本軍司   | 田辺弘子  | 川島榮子   |
| 山本幸子   | 井上圭子  | 久保田順一  |
| 橋本 彰   | 妹尾公代  | 井林寿奈子  |
| 堀江房麿   | 平野喜一  | 鮫田二郎   |
| 金森節子   | 川村信子  | 柴田慶一郎  |
| 林 信男   | 中田将一  | 鉄田トシエ  |
| 岩城豊子   | 今村克美  | 中嶋日出男  |
| 夏山春子   | 清 紀嘉  | 小坂さゆり  |
| 金谷 昭   | 梅田廣征  | 熊田千夜子  |
| 川上久堅   | 小林博子  | 中上紀代子  |
| 中山 治   | 本間 隆  | 本間黎子   |
| 馬淵晶子   | 安良陽子  | 青木良夫   |
| 加藤浩二   | 後藤純子  | 中岡昌子   |
| 関口博子   | 田中美子  | 山盛加奈子  |
| 木村 登   | 森嶋靖子  | 岩崎キワ子  |
| ○守田光太郎 | 木村恵子  | ○浅野 剛  |
| ○沖 伸   | ○仲谷礼司 | (計62名) |

**泉南 高森山から四国山**

1月13日(木) ○西上和利  
\*バス定員未満で中止しました。

**室生 額井岳から戒場山**

1月15日(土) ○中 照行  
\*参加1名のため中止しました。

**紀北 海南駅から紀伊宮原駅**  
(週末ハイイク120)

1月15日(土) ○狩野東彦  
\*青春18きっぷが利用できず中止しました。

**若狭 岩鷲山インディアン平原**

1月16日(日) ○村田智俊  
\*豪雪と雨天のため中止しました。

**栗石シリーズ23**  
**京都北山 雪の地蔵山**  
(火曜ハイイク7)

1月18日(火) 晴れ  
(集合)JR八木駅8:20—24(バス)越畑口8:50—越畑9:25—40—声見峠10:20—旧反射板跡12:20(昼食)13:10—地蔵山13:15—反射板13:30—林道出合

14:15—社務所14:45—15:00—水尾分れ15:20—中尾根大岩16:00—水尾林道出合16:50—17:05—JR保津駅17:20(解散)

地蔵山の裏は積雪量60〜70センチと例年にないほどに多く、久々の雪山の雰囲気満喫できたが、アセビの森に難渋させられた。青空の下の雪景色に満足し、霧氷の森に歓声が上がった。天気にも恵まれ、8時間を越えるロングコースだったが、参加者の顔には喜びが多かった。

**参加者**

- |       |       |        |
|-------|-------|--------|
| 木内範文  | 鈴木恒男  | 氷見真砂子  |
| 岡本正明  | 田中 明  | 武部美美子  |
| 林 正義  | 下山 登  | 野間さよ子  |
| 浅野 剛  | 大槻一夫  | 小坂さゆり  |
| 堀江房麿  | 小野和良  | 小川富士雄  |
| 岩佐 修  | 富田雅也  | 林 久美子  |
| 磯部 純  | 小林 桂  | 守田光太郎  |
| 後藤智之  | 加藤浩二  | 高常啓子   |
| 小栗大直  | 今泉 勲  | 須藤浩子   |
| 和田純子  | 志水明美  | 妹尾一正   |
| 馬淵晶子  | 後藤純子  | 久保田玲子  |
| 川上久堅  | 大東 哲  | 加納由紀子  |
| 林 義朗  | 小松志信  | 船本裕巳子  |
| ○本間 隆 | 林 弘毅  | ○金谷 昭  |
| ○沖 伸  | ○仲谷礼司 | (計44名) |

**綿向山**  
(鈴鹿を歩く348)

1月23日(日) 雪のちくもり



雪の地蔵山へ (岡本正明)



衣笠山にて昼食 (田中 明)



綿向山ブナの木平にて (一芝義雄)



綿向山山頂 (西村敏夫)

●(参加者の山行記)  
熊野神社を抜けると林道は積雪

◎岩野 明

|      |      |       |        |
|------|------|-------|--------|
| 小林 修 | 高杉 博 | ○一芝義雄 | (計36名) |
| 岩本彰子 | 大西脩郎 | 池田隆一  |        |
| 西村敏夫 | 加藤國計 | 稲津謙治  |        |
| 針谷邦夫 | 針谷静子 | 居原田幸弘 |        |
| 滝川 登 | 多田 徳 | 左近健一朗 |        |
| 木下朝子 | 山田景三 | 吉岡うた子 |        |
| 寺井博子 | 谷 守  | 奥野太一郎 |        |
| 小林 桂 | 磯部 純 | 白木やす子 |        |
| 山内玄次 | 栗本敏夫 | 小川富士雄 |        |
| 金谷 昭 | 高原芳彦 | 中澤美香子 |        |
| 永戸鉄治 | 武村千鶴 | 鈴木恒男  |        |

今年はいつになく雪が多い。熊野神社より林道を行くが雪は深さと重みを増してゆく。林道終点の文三八ゲは雪の下に隠れ、雪が降ってきた。ガレ上部のヤセ尾根では柔らかい雪にスノーシューが活躍。樹氷が風に揺れる頂上に軽くオサラバしてブナの木平に。昨秋集めた枯木で暖かなドントの昼食。降りしきった雪もやみ、ガレ横の急斜面、植林の間を一気に駆けくだった。一瞬、自分が野兔になったように思えた。

(中澤美香子)

◎(集合)蔵王ダム広場8・10(車)熊野8・25  
林道文三八ゲ取付10・25  
水無尾根10・55  
綿向山11・45  
ブナの木平12・10(昼食)  
13・00  
熊野峠14・10  
滝山谷15・10  
熊野15・35(解散)

1月29日(出)くもり時々雪  
(集合)JR敦賀駅9・10(車)いこいの森  
登山口9・45  
カンジキタイム10・15  
一の岳手前11・45  
野坂岳頂上小屋13・00(昼食)  
13・50  
民放アンテナ14・45

野坂岳

それにしても、白一色の斜面に的確なルート取り、新ハイの鈴鹿組はさすが山の理解度が違うと思った。

(多田 徳)

60℃、堰堤前の終点部で1日くらい。この雪の量はいまままでに体験なく、初めてだと言う。お陰で文三八ゲは登りやすく、崖縁の稜線も幅広く、スノーシュー・ワカンのままで登る。

綿向山山頂では表参道から続々と他のグループが到着。なかにはテントで宴会しているグループもいる。風はたいしたことないが地吹雪、展望はなく、北峰をカットしてブナ平に向かう。埋蔵金ならぬ埋蔵木を掘り出して焚き火を囲んでお昼にする。

992以降からの下り、お菊ハゲの縁は相当地に急で、以前奥草山・政子への縦走時に気がつかなかったが、よく滑り、雪のブロックが雪崩れていく。熊野峠(塩の道峠)から滝山谷沿いの斜面のトラバースは適当に雪量で足場が固めやすく無難に通過できた。





野坂岳三の岳への登り (森井 潔)



敦賀市街から雪の野坂岳 (森井 潔)



野坂岳山頂にて (一芝義雄)



野坂岳樹氷の下で (一芝義雄)

登山口15・40 (解散)

計画した北尾根コースは、斜面がきつく大雪のため表層なだれの恐れもある。30分雪の上を歩いてカンジキを着けた。雪は深く二回目の小川を渡る手前で尾根に登る雪山コースとなっていた。その斜面が直登でけっこうきつく長い。一の岳手前で5人がリタイアした。風を避けて雪庇を眺めながら小昼とした。二の岳のブナ林の雪のファンタジア。無数の小枝に真っ白い雪の花が満開。杉の木は蔵王のモンスターのさながら。頂上の避難小屋は入口の戸が雪で埋まり裏の窓から入った。2日の積雪。頂上は一面の雪原。雪に覆われた敦賀市街や若狭湾が眼下に広がる。新雪斜面を自由にくだる。クッションが柔らかくて速い。けれども何度も雪に顔をつっこんで転ぶ。本格的な雪山を十分に堪能した一日だった。

参加者

林 正義 島田 廣 森井 潔  
 川戸せつ 田辺弘子 堀江房磨  
 小栗大直 一芝義雄 一芝美知子  
 多田 徳 平塚明美 北村つねみ  
 貴堂雅路 稲津謙治 加藤國計  
 石原君子 谷 守 岩本彩子  
 木下朝子 ◎高島伸浩  
 (計20名)

鈴鹿能登ヶ峰

1月29日(出) 晴れ時々曇り

(集合) JRR京都駅7・40~55 (バス) 鮎河  
 9・20~40 林道登山口10・20~30 能  
 登ヶ峰11・55~12・00 鹿の楽園12・20  
 (昼食) 12・50 能登ヶ峰13・10~20 黒  
 滝14・20~40 (バス) 京都駅16・10 (解散)

積雪30~50cmのラッセルで登ったが、雪が粉雪状でアイゼンだけでも歩けた。鹿の楽園への広場で昼食をとったが低温で寒くなり、ゆっくりにできず早く帰ろうということになった。途中の展望地からは鐘ヶ岳・御在所岳、また綿向山など鈴鹿の高峰が美しく見えた。黒滝への下山道にはトレースがあつて快適にくだれた。

参加者

入江 勲 池田美恵子  
 川田位子 岡本正明 佐々木輝子  
 池田繁子 鈴木恒男 久保田玲子  
 繁田広美 林 義朗 武部美美子  
 三井絃一 井上恭子 林 久美子  
 木村絹恵 後藤純子 名加恵美子  
 三野 旭 大嶋 勉 小池一郎  
 岩村春子 中江憲子 中江南海雄  
 中川善弘 石田賢二 中澤美香子  
 小野和良 藤井益子 大東 哲  
 日高良一 島川明代 ◎宮野哲郎  
 ◎村田智俊 (計33名)

(参加者の山行記)

●林道の橋を渡った所からテープを頼りに登山道をサブが先導して行く。



油コブシにて (田中 明)



麓の楽園への展望所から (中澤美香子)



能登ヶ峰の樹氷 (中澤美香子)



山本山片山越での昼食 (森井 潔)



山本山に到着 (森井 潔)

河内正治 田中 明 村岡雄志郎  
 柳川常雄 鮫田二郎 村上美代子  
 林 信男 角江朝子 中嶋日出男

陽気に恵まれゆつくり歩く。日だまりの芝生広場でのんびり昼食し、油コブシ(△625・5)で集合写真撮ってから寒天山道より下山したが、御影高校の耐寒登山日で約700名の生徒がくだってきたのでそれに混じって歩いた。

2月4日(金) 晴れ  
 (集合)阪急六甲駅10:00→05(バス)六甲ケープル下駅10:20→30芝生広場11:30(昼食)12:30→油コブシ12:40→45寒天山道出合12:50→鉄塔分岐13:35→50→公園14:30→35→六甲駅15:00(解散)

六甲 油コブシ (金曜里山ハイイク36)

雪の重みによる倒木が進路を阻み、やがて方角さえあやふやに。ここは地形図を読み冷静に判断し、支尾根から山頂を目指す。やがて能登ヶ峰の標識を確認し、山名板のありがたさを痛感した。  
 昼食時の寒さに耐えかねて鹿の楽園まで訪れそとなったが、サラサラ雪の感触、足が思うように上がらない不自由ささえおもしろい鈴鹿の山行だった。  
 (中澤美香子)

長沢佑美 後藤智之 水見真砂子  
 入江 勲 繁田広美 池田繁子

近年にない北陸の大雪も木之本あたりは少なくなるが、それでも山の稜線では30→80cmもある。山本山の登りで大汗をかいたが深い雪に大喜びする。古墳群の尾根道は歩きやすいが、この2→3日続いた天気で地表に接する部分が解け始めて歩きにくくなり、雪に足を取られて時間がかかる。とくに丸山あたりではかなり難渋した。賤ヶ岳を目前にして大音峠で縦走を諦めて大音に下山したが、雪山を楽しめた山行であった。  
 \*狩野リーダーの都合により仲谷が代行した。

2月5日(土) くもり  
 (集合)JR京都駅7:40(バス)伊賀神社9:40→10:05山本山10:45→55片山陸道分岐11:40(昼食)12:30→西野集落分岐13:05→P32014:05→15丸山14:45→55大音峠15:50→16:00賤ヶ岳トンネル口16:20→30大音16:50→17:00(バス)京都駅18:40(解散)

湖北 山本山から賤ヶ岳

(週末ハイイク121)

妹尾一正 青木一雄 大野宣子  
 巻田 晃 渡部和美 和田純子  
 今泉 勲 ○川上久堅  
 ◎村田智俊 (計20名)

- 森井 深 森井順子 寺井博子  
 吳比裕美 三野 旭 久保田玲子  
 山本幸子 田中 明 高橋舜治  
 渡谷節枝 道広直輝 岡田かよ子  
 大嶋 勉 岡崎知子 大井隆嗣  
 浅野 剛 宮野哲郎 船本裕巳子  
 小林 桂 兼子衣代 林 久美子  
 小野和良 藤本紀子 大西世津子  
 大和 紘 秀田順子 柴田慶一郎  
 馬淵晶子 ○金谷 昭 ○仲谷礼司  
 (計38名)

**奥 屏風山** (展望の山77)

2月5日(出) くもり

(集合) JR西岐阜駅 8:15 (車) 屏風山登山口 9:50 10:00 110番鉄塔 10:30 腰掛岩 11:00 八百山 11:12 屏風山 11:20 (昼食) 12:00 1109番鉄塔 12:20 駐車場 12:45 (車) 大鉄宿 13:10 本陣山 13:30 大鉄宿 14:30 (車) JR勝川駅 15:40 (解散)

予定した百曲り登山口ではなく、大草ルートを行って左から下りた。山頂で食事後、1時間からずい下山できたから、近くの本陣山にも行った。本陣山は中山道大鉄宿の裏山である。

- 参加者**  
 竹内正子 三井絃一 小林一世  
 馬場桂子 竹田善英 石井照雄  
 緒方由子 高原芳彦 中澤美香子  
 多田 徳 山田妙子  
 (計12名)

**黒尾山** (鈴鹿を歩く349)

2月6日(日) 晴れ

(集合) 水源寺ダム 佐目小谷出合広場 8:25 佐目小谷中河原 9:05 烏帽子尾根 10:00 黒尾山南東ピーク 12:25 (昼食) 13:25 黒尾山最高峰 13:50 黒尾山 14:05 尾根分岐 15:10 出合広場 17:15 (解散)

誰がこんな山行になると想像していただろう? 佐目小谷をへつるようにはいったん河原に出てそこからが大変だった。急斜面に取り付き気温が上がるにつれ雪が腐ってゆく。尾根にのってひと安心と思いきや、そこからヤセ尾根の連続。荒々しい尾根は神々しい。971mのピークから銚子ヶ口からの稜線になってやっとな息をつけた。黒尾山の山頂にはモミの原木があった。そこから佐目小谷へ急降下。文句なしの健脚雪山ハイクだった。(中澤美香子)

- 参加者**  
 鈴木恒男 中澤典司博  
 高原芳彦 山内玄次 中澤美香子  
 武村千鶴 磯部 純 白木やす子  
 萩野暢子 貴堂雅路 永戸鉄治  
 木下朝子 山田景三 小川富士雄  
 岩本彩子 森村 守 左近健一朗  
 栗岡 康 栗岡克子 加納由紀子  
 池田隆一 井口俊介 居原田幸弘  
 谷 守 西村敏夫 奥野太一郎  
 大西脩郎 小松志信 北村つねみ

**送り火の山4**  
**沼北 広沢池から曼荼羅山** (ゆっくり歩こう16)

2月9日(水) くもり

(集合) 大覚寺バス停 9:30 50 広沢池 10:10 長刀峠 10:40 長尾山 11:30 京見峠 11:50 朝原山 12:00 (昼食) 12:35 嵯峨天皇陵 12:55 観音寺林道 13:15 曼荼羅山火床 13:50 14:10 大覚寺バス停 14:50 (解散)

今回は広沢池の風景を楽しみ、そこを取り巻く山々を歩く計画である。嵯峨野の山も歩いてみると枝道は多いが楽しいものである。長尾山は残念ながら展望に乏しいが三角点峰である。尾根伝いに愛宕山の絶好ポイントを通して嵯峨天皇陵へ。下山して登り返して曼荼羅山の火床へ。曇空も明るくなり市内が一望できた。震えながら昼食を食べたきょうの天気であった。

- 参加者**  
 鈴木恒男 別所 吳  
 渡辺いづく 山本軍司 井林寿奈子  
 山本幸子 森嶋靖子 中上紀代子  
 浅野 剛 平野喜一 中嶋日出男  
 堀江房麿 金谷 昭 高橋静雄  
 中岡昌子 川島榮子 辻垣詞子  
 林 義朗 中辻勝子 田中 明

**鹿倉山**

2月11日(祝) 雪のちくもり

(集合) JR京都駅 7:40 (バス) 深山林道登山口 9:20 40 深山出合 10:00 狼谷 地獄尾根コース分岐 10:30 鉤掛地蔵の峠 11:00 北峰 11:25 鹿倉山 11:35 (昼食) 12:20 熊野神社 13:10 森水満宮 13:35 深山林道登山口 14:05 25 (バス) 草山温泉「観音湯」 14:40 (入浴) 16:00 (バス) 京都駅 17:40 (解散)

丹波に入ると降雪もやんで見晴らしが良くなった。積雪もわずかでアイゼン無しで登れた。山頂広場で45名が陣取って昼食休憩したが、無風で寒くなくゆっくりできた。南西に多紀アルプス(小金ヶ嶽・三嶽など)が眺望できた。下山時に烏帽子岩で右折するべきだが急降下の雷道を見て、尾根通しをくだるとテープが消

- 兼田幸子 橋本 彰 水本加津菜  
 林 信男 君塚郁子 柴田慶一郎  
 馬淵晶子 沖 紀子 林 久美子  
 川上久堅 中田将一 藤井義治  
 青木良夫 長沢佑美 田中美子  
 本間 隆 本間黎子 中川光郎  
 清 紀嘉 岩城豊子 安良陽子  
 小林 桂 小林博子 砂原恵美子  
 森 和久 吉野栄子 鮫田二郎  
 高田京子 秦 康夫 後藤純子  
 岡本和子 ○青木一雄 ○沖 伸  
 ○仲谷礼司 (計54名)



黒尾山山頂にて (一芝義雄)



屏風山三角点 (山田明男)



屏風山登山口 (山田明男)



鹿倉山山頂にて (森井 潔)



曼荼羅山 (田中 明)

●雪がなく肩透かしを食らった感じの山だった。45名の参加者にかかわらず終始隊列が乱れず、快速に登降を楽しめた。三嶽と小金ヶ嶽が展望できた以外、曇り空で周囲の山々が展望できなかつたのが残念であった。機会があればもう一度空気が澄んだ日に来て見たいと思うが、アプローチが悪いからマイカーでの登山が便利だろう。

(森井 潔)

〔参加者の山行記〕

●村田智俊

大槻一夫 岡崎知子

塩尻香織 岩村春子

多田 徳 小谷和子

村瀬和美 田辺弘子

首藤育子 塚本忠次

志水明美 竹内正子

木村絹恵 後藤純子

林 義朗 三井絃一

池田繁子 鈴木恒男

岡本正明 岡本和子

森井 潔 渡辺いく

渡部和美 兼子衣代

平田輝美 和田直樹

緒方由子 長沢佑美

橋本紀代子

小栗大直

三野 旭

大園加代子

高橋舜治

木内範文

若林文夫

小松志信

林 正義

加納由紀子

西谷眞実子

小川富士雄

○大東 哲

(計45名)

えてしまったが、地図を頼んで熊野神社へ無事下ることができた。最後は轟水滝宮の大クスを眺め、登山口に下り立った。帰路、草山温泉観音湯に浸かり、買い物や飲食でゆっくりできた。

耐寒ウォーク  
奈良 春日山から若草山

2月13日(日) 晴れ時々曇り

(集合)近鉄奈良駅 9:30 春日大社 10:10

10 春日山原始林遊歩道入口 10:30 妙見宮 11:10

11 首切地蔵 11:35 45 石切峠 12:05

12 尾根広場 12:20 (昼食) 12:50

13 芳山 13:00 林道 13:25 欽喜天

14 滝 14:05 若草山ドライブウェイ

14:15 若草山 14:50 15:10 原始林遊歩道

16 奈良公園 16:00 奈良駅 16:20 (解散)

(解散)

春日山原始林の古木を見ながら首切地蔵へ遊歩道をたどる。芳山への道は積雪が10cm程で雪山を楽しみながらたどり、鶯の滝へくだって若草山へ行った。奈良市街と生駒山、葛城・金剛山が展望できた。原始林の道を奈良公園へくだった。周回コースで約17・5kmのロングコースになったが、急登や急降下の道もなくのんびりと歩くことができた。

参加者

永富律子 上住忠雄

田中 操 岩田育士

山本幸子 小田潤子

磯部 純 中嶋日出男

山本令子 村岡雄志郎

兼田幸子 佐野信江

青木一雄 中上紀代子

岡崎知子 井林寿奈子

高杉 博

小林 桂 山野志保江

小林 桂

小林 博子

楠原良彦

高杉 博

大井 進

井林寿奈子

柳川常雄

中上紀代子

林 義朗

佐野信江

山本武臣

村岡雄志郎

中山 賢

小田潤子

小森外松

中嶋日出男

森井 潔

上住忠雄

岩田育士

岩田育士

田中 操

岩田育士

山本幸子

小田潤子

磯部 純

中嶋日出男

山本令子

村岡雄志郎

兼田幸子

佐野信江

青木一雄

中上紀代子

岡崎知子

井林寿奈子

高杉 博

高杉 博

小林 桂

山野志保江



若草山にて旗占い(森井 潔)



芳山山頂(森井 潔)



首切地蔵(森井 潔)



總持権殿前にて(森井 潔)



東妙理山にて(榎上俊雄)

2月16日(日) 晴れ  
参加者 榎上俊雄、森井 潔、後藤 浩、堀家洋子、久馬麻登河、宮村信夫、後藤智之、多賀久子、白鳥忠子、市岡晴美、井上由紀晴、堀家正則、堀家洋子、久馬麻登河、安倉正勝、村田智俊 (計40名)

2月16日(日) 晴れ  
参加者 榎上俊雄、森井 潔、後藤 浩、堀家洋子、久馬麻登河、宮村信夫、後藤智之、多賀久子、白鳥忠子、市岡晴美、井上由紀晴、堀家正則、堀家洋子、久馬麻登河、安倉正勝、村田智俊 (計40名)

關西曹並から妙理山

2月16日(日) 晴れ  
参加者 榎上俊雄、森井 潔、後藤 浩、堀家洋子、久馬麻登河、宮村信夫、後藤智之、多賀久子、白鳥忠子、市岡晴美、井上由紀晴、堀家正則、堀家洋子、久馬麻登河、安倉正勝、村田智俊 (計40名)

参加者の山行記  
●アップダウンの少ない遊歩道、芳山の雪尾根縦走、若草山からの奈良市街の大展望を満喫した。コースの半ばは遊歩道・ドライブウェイだったが、無舗装の道で山靴にやさしくゆっくりと歩くには最適な行程であった。芳山の尾根道は5月の雪が全体に残り、雪山らしい雰囲気も味わえ、変化が楽しめた。(森井 潔)

2月19日(日) 晴れのちくもり  
参加者 榎上俊雄、森井 潔、後藤 浩、堀家洋子、久馬麻登河、宮村信夫、後藤智之、多賀久子、白鳥忠子、市岡晴美、井上由紀晴、堀家正則、堀家洋子、久馬麻登河、安倉正勝、村田智俊 (計11名)

2月19日(日) 晴れのちくもり  
参加者 榎上俊雄、森井 潔、後藤 浩、堀家洋子、久馬麻登河、宮村信夫、後藤智之、多賀久子、白鳥忠子、市岡晴美、井上由紀晴、堀家正則、堀家洋子、久馬麻登河、安倉正勝、村田智俊 (計11名)

京都西山  
十方山から西山キャンプ場  
(週末ハイク122)  
2月19日(日) 晴れのちくもり  
集合 JR山崎駅 8:30 本無瀬の湯 8:55  
9:00 十方山 9:45、55 小倉平社分枝 10:10、15 浄土谷乗願寺 10:45  
15 樽谷揚谷 11:15 昼食 12:20  
1 谷道經由 西山古道出合 13:10、20  
1 石分枝 13:45、50 大沢十字 14:15、20  
1 観音宮 14:45、50 大沢十字 15:15、20  
1 6-1 大沢 15:45、50  
(計11名)



蛇谷ヶ峰山頂にて (秦 康夫)



矢頭山山頂にて (中 照行)



霊仙山お猿岩周辺にて (一芝義雄)



霊仙山西南尾根を歩く (中澤與司博)

伊勢三山ではないがひと際鋭い鋸歯の峰をした稜線で、久居インテークから30分で登山口に着くことができる手軽な山である。周回するコースだが急登、急降下を二回ほど繰り返して山頂へ。下山は急降下の連続であり、全体的に固定ロープがあり短時間ながらスリリングな山登りが味わえる。この日は陽春を思わせる快晴で山頂からは東に伊勢湾と津・松阪市街が一望でき、北には青山高原、西方向には局ヶ岳、高見山、曾爾高原などがくっきりと眺望でき、大満尾。

2月19日(出) 晴れ  
 (集合) J R 石山駅 7:30 (車) 中宮公園登山口 9:30  
 山口 9:30 → 57 → 大日拝展望台 11:30  
 矢頭山 12:03 (昼食) 13:00 → 矢頭峠 14:14  
 10 | 中宮公園登山口 14:23 (車) 石山駅 14:35 (解散)

**伊勢 矢頭山**

- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 下山誠公  | 岸本正弘  | 岸本紀子  |
| 下郡正年  | 田辺弘子  | 岡崎知子  |
| 大井隆嗣  | 中山 賢  | 浅野 剛  |
| 加藤浩二  | 橋本 彰  | 神谷恵美子 |
| 大川直澄  | 川上久堅  | 近藤恵美子 |
| 青木一雄  | 後藤智之  | 柴田慶一郎 |
| 大野宣子  | 沖 伸   | 中川光郎  |
| 井上圭子  | 山高義治  | 山高多恵子 |
| 吉野栄子  | 長沢佑美  | 澤田昌子  |
| ○仲谷礼司 | ◎狩野東彦 |       |
- (計34名)

**比良 蛇谷ヶ峰から富坂尾根**

(比良を歩く85)

2月20日(日) 晴れ  
 (集合) J R 近江高島駅 9:00 → 03 (バス) 畑バス停 9:24 → 45 | 林道登山口 10:15  
 → 20 | 徒渉地点の上 10:42 → 50 | ポポフダ峠 (須川峠) 11:30 → 40 | 滝谷ノ頭 11:55 | 蛇谷ヶ峰 13:00 → 10 | 標高 850 計  
 周辺 13:15 (昼食) 13:40 | ポポフダ峠 14:25 → 30 | 林道登山口 15:16 | 畑バス停 15:40 → 16:09 (バス) 近江高島駅 16:31 (解散)

今年の比良は雪が深い。ポポフダ峠までの登りは何とかツボ足で頑張ったが、峠からは全員ワカン装着しての稜線歩きとなった。登山道はほとんどに雪が締まっていたのでワカン歩きには快適だったが、それでも、うっかりトレイルを外して深雪に踏み込んでしまい、ワカンを抜き上げるのに苦労する場面もあった。蛇谷ヶ峰には13時に到着したが、山頂までワカンを必要としなかった昨年より30分程遅い。帰りのバス時間のことでも考えて富坂尾根くだりは断念し、往路を戻ることにした。真っ白に輝く伊吹山や、金養岳、横山岳など奥美濃の山々を眺め、記念写真

上田裕子 大園加代子  
 宮路ちへ子 ◎中 照行  
 (計5名)

を撮ってから山頂より少しくだった所で昼食にした。くだりは早い。登りのしんどさを忘れて存分に雪と戯れながら2時間程で畑まで下りてきた。

- 参加者**
- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 小谷和子  | 堀本愛子  | 塩尻香織  |
| 山口敏明  | 野原知子  | 野間さよ子 |
| 平塚明美  | 島田 廣  | 橋本紀代子 |
| 貴堂雅路  | 渡辺佳治  | 高橋静雄  |
| 牧 和夫  | 川田洋子  | 田中 明  |
| ○大森康行 | 東 明美  | 福岡 章  |
|       | ○大東 哲 | ○秦 康夫 |
- (計20名)

**霊仙山西南尾根(鈴鹿を歩く350)**

2月20日(日) 晴れ

(集合)野島公園8・30(車)落合9・10  
汗ふき峠10・05→15見晴台10・50→  
11・00お猿岩11・25→40霊仙山12・  
15(昼食)13・15→最高点13・25→近江  
展望台14・10→笹峠14・45→55→今畑  
15・30(解散)

光の春、恒例の霊仙山行も今回は少し寂しい。「オーイ休憩」と声をかけるリーダーの姿が見えないからだ。落合道や木の根廻りの雪が解けて土が顔を出す。汗を拭いながら登れば眼下に琵琶湖、湖北や比良の山は言うに及ばず、北・中央・南アルプスまで遠望できた。雪原が広がる霊仙山から麓へ抜きを注意しながら

西南尾根へ。フクジュソウはまだ雪の下。春の訪れと岩野リーダーの一日も早い回復を願う山行だった。(中澤美香子)

- 参加者**
- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 山内玄次  | 鈴木恒男  | 中澤興司博 |
| 萩野暢子  | 寺井博子  | 中澤美香子 |
| 永戸鉄治  | 森村 守  | 北村 稔  |
| 櫻田勝利  | 栗本敏夫  | 栗岡克子  |
| 小林 桂  | 滝川 登  | 左近健一朗 |
| 加藤國計  | 多田 徳  | 白木やす子 |
| 金谷 昭  | 沖 伸   | 小川富士雄 |
| 木下朝子  | 吉岡 仁  | 加納由紀子 |
| 谷 守   | 小林 修  | 居原田幸弘 |
| 大西脩郎  | 稲津謙治  | 奥野太一郎 |
| ○一芝義雄 | ○山田景三 | ○後藤康幸 |
- (計35名)

**(参加者の山行記)**

●高度を上げるにしがたい残雪も豊富に、左手に金養岳がアインと鎮座している。ショートカットしてダイレクトに山頂へアタック。灌木の間をスノーシューで快適に登りたいところだが、急な斜面に何度も呼吸を整え、体を上へ上へと持ち上げる。番水はすべて落ちていた。360度の展望がきょうも我々を迎えてくれた。西南尾根の悪雪に難儀しながらくだったのが、春告げ花(フクジュソウ)は深い雪の中だった。(中澤興司博)

**京都西山 沓掛山から大枝山・大曇山(火曜ハイク78)**

2月22日(火) 晴れ

(集合)阪急上桂駅8・00→10桂坂野島園9・15→20沓掛山10・05→15林道分岐10・55→老の坂11・35→首塚11・50(昼食)12・40→大枝山13・30→35→西山団地→大曇山14・30→35→下山分岐15・00→大原野下山口16・00→境谷センター前バス停16・55(解散)

唐櫃越えの沓掛山へは竹林や自然林のなかの道である。先へ進み林道分岐からは旧道を老の坂へ、楽しめる道である。酒呑童子伝説の首塚で昼食をとり大枝山へ。電波塔を越えて欄越えに難儀しながら大曇山へ。大原野への下りの道を利用して、大原野神社から洛西ニュータウンに入る。予定の時間を相当にオーバーして解散する。

- 参加者**
- |      |      |       |
|------|------|-------|
| 岡本正明 | 木村 豊 | 渡辺いく  |
| 三輪直文 | 岡本和子 | 三井敏一  |
| 岸本紀子 | 鈴木恒男 | 中江南海雄 |
| 山本軍司 | 下山 登 | 下山誠公  |
| 小西節子 | 中山 賢 | 小野和良  |
| 田中 明 | 磯部 純 | 加藤浩二  |
| 今村克美 | 若林文夫 | 神谷恵美子 |
| 大林 進 | 川上久堅 | 木本加津美 |
| 長沢佑美 | 金谷 昭 | 本買 隆  |
| 後藤智之 | 林 義明 | 瀧 紀彦  |
|      | 豊田 晃 | 宮西和子  |
|      | 大野宮子 | 五瀬三枝子 |

**西吉野 袖野山**

2月24日(日) 西上利和

\*雨天のため中止しました。

- |       |        |       |
|-------|--------|-------|
| 林 信男  | 中川光郎   | 小坂さゆり |
| 渡部和美  | 馬淵晶子   | 船本裕巳子 |
| 塚本忠次  | 青木良夫   | 武部美英子 |
| 森 和久  | 後藤純子   | 柴田慶一郎 |
| 竹田善英  | 平田輝美   | 猪狩美枝子 |
| 妹尾一正  | 川村信子   | 和田直樹  |
| ○浅野 剛 | ○守田光太郎 |       |
| ○青木一雄 | ○沖 伸   | ○仲谷礼司 |
- (計58名)

**西方面 西方ヶ岳**

2月26日(日) 晴れ

(集合)JR敦賀駅9・10(車)常呂神社登山口9・40→奥の院展望所10・05→カンジキタイム10・30→休憩11・15→オーム岩11・40→P580→12・15→西方ヶ岳12・50(昼食)13・50→オーム岩14・30→銀命水14・50→カンジキ外す15・30→登山口16・20(解散)

登山口の常呂神社の紅葉、白梅、ロウ梅が満開だった。敦賀湾の海抜ゼロメートルから764mの西方ヶ岳へ。奥の院展望所から暮かた敦賀湾の入り江や敦賀市街が広がっている。雪雲3つあたりからカンジキを着けた。灌木が倒れ、夏道が不明の



鏡石山山頂にて (森井 潔)



西方ヶ岳山頂にて (一芝義雄)



大野城跡へ (森井 潔)

所もある。前人の踏跡をたどる。葉を全て落としたブナの梢を透かして、眼下に無人島の「水島」が、コバルトブルーの三日月型を形どっていた。3時間10分で頂上へ。避難小屋は雪に半分ほど埋まり、広場はいつもの倍以上になっていた。快晴・無風の雪上はまぶしく暖かいほど。偶然に標識の頭が出てきた。積雪は170センチほど。三角点愛好者はいさつをしに行つた。お日さんをいっばい浴びて、南斜面をくだつた。解散ミーティングで、皆で輪になり肩を揉みあい、お互いきよの喜びを分かち合った。空の青、海の碧、雪の白、山々の緑……豊かな自然の恵みを存分に味わつた。

**紀北 鏡石山から藤白峠**

2月27日(日) 晴れのちくもり  
 (集合)近鉄上本町駅8・10(バス)県道18号雨ヶ森林道分岐9・45〜55陶芸の里10・00別所茶屋跡10・20鏡石山11・10(昼食)11・50鯛ノ峰―熊尾寺山12・20〜25雨ヶ森林分岐13・40大野城跡13・10〜25藤白峠14・15筆捨松14・25〜30藤白神社15・00〜30(バス)難波駅17・00(解散)

**【参加者の山行記】**

● 敦賀三山のうち、西方ヶ岳に向かう。常宮神社のロウ梅・紅梅が咲き、麓はすっかり春の様相。展望岩から見る海と空はあくまで青く、岐阜県境の稜線は白くかすんでいる。銀命水は雪の下だが、マンサクが咲きかけ、やがてブナ林の尾根になる。山頂では避難小屋に入らず、展望を楽しんだ。終日青空に恵まれ、敦賀の雪山が楽しめた。(多田 徳)

**◎高島伸浩**

- |      |      |       |
|------|------|-------|
| 金森節子 | 島田 廣 | 林 正義  |
| 堀江房麿 | 西田俊治 | 北村つねみ |
| 川戸せつ | 一芝義雄 | 一芝美知子 |
| 多田 徳 | 貴堂雅路 | 木下朝子  |
| 岩本彩子 | 加藤國計 | 田中 明  |
| 谷 守  | 石原君子 | 稲津謙治  |
|      | 朝倉松雄 | 緒方由子  |
- (計21名)

夕刻より雨の子報なので大型バスを陶芸の里まで上がってもらい、鏡石自然歩道を山頂へ登つた。ウバメガシの多いゆるやかな歩道は歩きやすかつた。日だまりの山頂で昼食を楽しみ、尾根を雨ヶ森林分岐へくだつて大野城跡へ左折して行く。アップダウンも少なくて歩きやすく、広々とした大野城跡で休憩した。尾根道から車道に出合い藤白峠へ出て、藤白坂(熊野古道)を藤白神社へくだつた。雨にも降らず晴れていて早目に下山できてよかつた。

**◎参加者**

- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 多賀久子  | 平田輝美  | 西谷真実子 |
| 入江 勲  | 佐藤和子  | 渡部和美  |
| 兼子衣代  | 永富律子  | 村岡雄志郎 |
| 岡本正明  | 渡辺いく  | 濱本美和恵 |
| 里見純生  | 岡本和子  | 繁田広美  |
| 岩鶴健司  | 森井 潔  | 久保田玲子 |
| 岩田育士  | 堅田 弘  | 竹内正子  |
| 魅山隆信  | 小野和良  | 吉岡うた子 |
| 中川善弘  | 西村文男  | 松上美代子 |
| 小林 桂  | 木村 豊  | 辻中 貢  |
| 志水明美  | 小森外松  | 鎌田和子  |
| 中島 隆  | 小栗大直  | 小坂さゆり |
| ◎村田智俊 | ◎宮野哲郎 | ◎安倉正勝 |
- (計39名)

**香越 シャープピークと鳳凰山**

・2月22日(火)〜25日(金) ◎村田智俊  
 \*最小催行人数未達で中止しました。

(1・2月の参加者 延800名)





綿向山ブナの木平（鈴鹿） 西村敏夫



佐目子谷川より黒尾山へ（鈴鹿） 西村敏夫



トレン山から金北山へ（天佐連山脈） — 芝義雄



翠ヶ池、6月の光景（白山） — 芝義雄

**原稿募**

**会員募集**

新ハイキングクラブ関西では次の要領で、原稿・写真を募集しています。

◇原稿用紙・ネガフィルムで、またはEメール（添付）でお送りください。

◇パソコン原稿の場合は、データ（FD・CD）を同封ください。

紀行＝3000字程度（400字詰718枚）

コースガイド＝1500字程度（400字詰4枚）

随想＝1900字程度（400字詰5枚）

\*紀行・コースガイドは、地形図上の略図コピー、写真2〜3枚、文末に歩いた年月日・コースタイム・地形図名を明記してください。

\*写真は未発表のもので、題目・撮影場所・撮影年月日を明記してください。

イラスト・カット＝当誌にふさわしいものを送ってください。

山行計画関連＝リーダーの方は、登山対象の山の写真があれば、計画書に添付してお送りください。

山行例会関連＝例会に参加された方は、写真・参加後の感想文（1000字程度）をお送りください（略・匿名は不可）。

原稿・写真の掲載使用料は、特別に当会より依頼したものを以外は、すべて無料扱いとなります。ご了承ください。

原稿はすべて新ハイキングクラブ関西へお送りください。

●「新ハイキングクラブ」は昭和21年発足以来、関東を中心に60年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で20年目に入りますが、すでに数千名の会員で活動しています。会員になれば当会のイベントに参加できます。多くの仲間達とハイキングを楽しみましょう。仲間は会員には会報誌「新ハイ関西」（隔月刊・年6号発行）を毎月お届けします。

●係（リーダー）はすべて無償の奉仕で、各自分で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

●四季の自然に触れながらの山歩きからウォーキングまで、ハイキングを通じて若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい方、すでにベテランの方もみなさんご入会いただけます。

入会金 500円（ワッペン共）  
年会費 3300円（送料共）  
入会の申し込み（随時）は、この会誌に挿入の振替用紙をご利用ください。

●お友達の住所・氏名をハガキで紹介くだされば、「新ハイ関西」を参考資料として無料で送ります。

○山行係（リーダー）募集  
経験のある方、やってみたいと思われ方は、新ハイキング関西までご連絡ください。「リーダー必携」をお送りします。

●本誌掲載の「参考付近図」は、国土地理院発行5万分の1、及び2万5千の1の地形図を使用して作成したものである。

**新ハイキングクラブ関西**  
代表 村田智俊  
(本部・編集室) 〒610-0121  
京都府城陽市寺田大畔10-10  
TEL(FAX 共)0774(53)2754  
(振替口座)新ハイ関西  
口座番号 01040-7-70356 番  
http://web1.kcn.jp/shinhaikansai  
Eメール: shinhaikansai@kcn.jp

●DTP 朝ケイエステイプロダクション  
●印刷製本 西太平洋

◆本号掲載広告索引◆

|                   |     |
|-------------------|-----|
| △メーカー▽            | 表4  |
| モンベル              | 表4  |
| △山用品店▽            | 表4  |
| 神戸ザック             | 表22 |
| △山の旅行社▽           | 表2  |
| アルパインツアーサービス      | 表2  |
| アウトドアサポートシステム     | 表19 |
| トラベル・ギャラリー旅の本棚    | 表3  |
| △山岳書籍▽            | 表25 |
| ナカニシヤ出版           | 表25 |
| 一等三角点研究会「一等三角点総覧」 | 表41 |

○新入会員紹介  
新しいお仲間のみなさんです。  
会員番号561915630番まで

- 【滋賀】 馬場二平 馬場洋子 (敬称略)  
藤本昭余志 増田佳代子  
【京都】 濱北紀子 大塚篤子  
平野喜一  
【大阪】 河北英二 藤田宏子  
川北明男 仁田修平  
山本睦枝 (12名)

訂正とお詫び  
●左記の通り訂正します。

- 117号(編者)  
\*23ページ二段9行「氣比神宮」→「氣比神社」、10行「氣比神社の末社」→「氣比神宮の分霊社」  
\*25ページ四段6行「牛房」→「牛房」  
\*26ページ表題・飯縄山の地域「鈴鹿山脈」→「北信濃」  
\*30ページ一段終わりから2行「道の説」→「逆の説」、二段18行「光鬼山」のルビは「こうさぎ」が正しい。  
\*31ページ二段終わりから4行「ヘリに来て」→「ヘリが来て」  
\*39ページ二段終わりから8行「用高駅」→「福用駅」

◇バックナンバー  
1号から117号(6・15・19・20号は品切れ)のバックナンバー在庫あります。ご希望の方は、挿入の振替用紙で誌代分を送金の上お申し込みください。定価は33号までは450円、34号からは500円、64号からは530円、98号からは560円、116号からは600円(送料は当会で負担)。  
●次119号(7・8月)は6月15日配布